

sangetsu

Environmental  
Report  
2025

環境レポート

## 編集方針

サンゲツグループは、当社の企業価値や中長期的な成長性を重要なステークホルダーの皆さまにご理解いただくため、年1回「SANGETSU REPORT」を発行し、財務情報と非財務情報についてあわせて報告しています。当社では、社会的課題やステークホルダーの皆さまの期待・要請に基づき、マテリアリティ（重要課題）を特定し、長期ビジョン【DESIGN 2030】、中期経営計画(2023-2025)【BX 2025】で定めた目標の達成を目指しています。本報告書は、環境面における重要課題を中心に、2024年度の実績と主な取り組みを報告しています。

## 報告対象範囲

株式会社サンゲツ

※一部の内容でグループ会社の記載も含まれます。

## 対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

※一部2025年3月以降の活動も含まれます。

## 発行月

2026年1月

## 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

## 将来の見通しに関する注意事項

本レポート内に記載されている株式会社サンゲツの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報に基づいた仮定および判断です。

## SDGsへの貢献

2015年9月、国連総会にて「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsでは持続可能な世界に向けて取り組むべき17の目標と169のターゲットが掲げられ、国だけでなく、企業にも積極的な関与が求められています。サンゲツグループでは、長期ビジョン【DESIGN 2030】を策定し、今後サンゲツグループが実現を目指す社会的価値として、「みんなで(Inclusive)、いつまでも(Sustainable)、楽しさあふれる(Enjoyable)社会の実現」を掲げました。

住宅や商業、オフィス、ホスピタリティ産業など、あらゆる建築物に対して、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくり」(Sustainable)をはじめとした事業活動と関わりの深い目標に重点を置き、その達成に向け貢献してまいります。

SDGsへの貢献について、詳しくはこちら

> <https://www.sangetsu.co.jp/company/sustainability/sdgs.html>



## INDEX

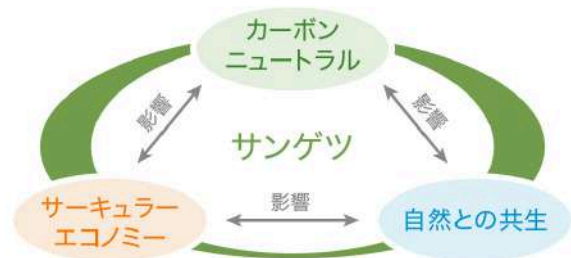
P3	環境方針・推進体制
P7	気候変動(TCFD提言に基づく情報開示)
P15	資源循環
P21	自然との共生
P25	低環境負荷商品
P40	汚染防止
P43	水資源の保全
P46	外部との連携
P47	ESGデータ集

# 環境方針・推進体制

## 自然資本に関する考え方

当社の事業活動は、主力製品の壁紙の木材資源使用や、製造・配送・施工の過程での化石エネルギー使用など、自然資本と密接に関わっており、自然資本の保全および回復は、非常に重要な課題です。また、当社の事業と関連の深い建設業界においても、設計段階での調達物品の選定にあたり、CO2の排出削減や資源循環に貢献する商品を選ぶニーズは日増しに高まっています。このような背景から、当社は自然資本に関するマテリアリティを選定し、環境負荷低減に取り組んでいます。具体的には、低環境負荷商品の開発やサプライチェーン全体の効率化を通じて、持続可能な地球環境の実現という社会価値と、新たな販売機会の創出や規制対応コスト削減といった経済価値の両立につなげています。また、自然資本の3つのマテリアリティは相互に影響し合う関係にあるため、各取り組み間のトレードオフを回避しつつ、相乗効果を生み出すための統合的な推進が重要です。例えば、太陽光発電を設置するために、当社にとって重要な自然資本である木材を伐採しては意味がありません。環境問題は、社会にとって喫緊の課題であり、今後も、商品企画・開発から製造・調達・提案・配送・施工・廃棄に至るまで、事業活動のさまざまな点から課題解決に取り組んでいきます。

### 自然資本の取り組みと企業価値向上のつながり



## 環境方針

当社では、環境保全に取り組んでいくことは、より良い住空間を提供する企業として当然の責務と考え、環境理念・環境方針を定めています。この方針に基づき、環境マネジメントシステムを運営し、継続的な環境保全活動を推進します。

### 基本理念

サンゲツは、快適な住空間の提供を通じ、より豊かな生活を実現するための役割と責任を担っている。当社の事業活動は環境との関わりが深く、その活動の中で環境保全に取り組んでいくことは、企業として当然の責務である。これらの観点から、自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、地球環境の保全に配慮し、より良い住環境の創造に努める。

## 基本方針

1. 環境マネジメントシステムの推進にあたり、環境目的及び環境目標を設定し、継続的改善を行い、企業活動と地球環境保護の両立を図る。
2. 適用可能な環境保全に関する法令及び当社が同意する要求事項を遵守する。
3. 商品の開発、生産、流通、使用、廃棄のすべての段階において、環境影響要因物質の使用の回避、廃棄物の削減、リサイクル、省エネ・省資源に努める。
4. 環境方針や環境管理活動への社員の理解と意識の向上を図るとともに、関係者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請する。
5. この環境方針は、一般に公開する。

## ESG/CSR方針

### 中期方針

1. サンゲツグループの事業全体の環境負荷を把握。
2. 地球温暖化防止や持続可能な資源循環に向けての体制を構築。

### 実践内容

#### (1)事業活動における環境負荷の低減

- ・ GHG排出量の削減
- ・ エネルギー消費量の削減
- ・ 廃棄物総排出量の削減
- ・ リサイクル率向上

#### (2)サプライチェーンにおける環境負荷の把握と低減

- ・ サプライヤーごとのGHG原単位の把握と、調達活動での考慮
- ・ グループ環境負荷の把握と低減プラン策定

#### (3)環境商品の開発・拡充

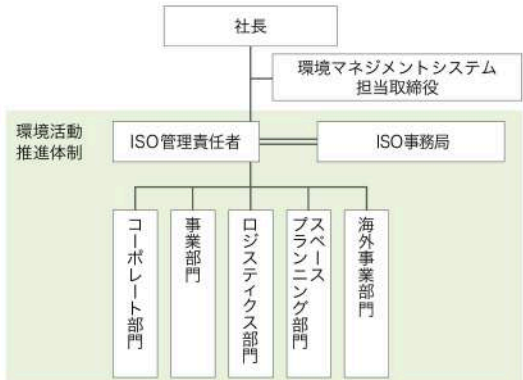
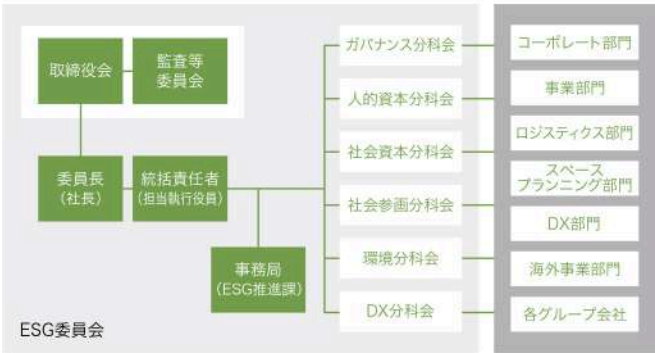
- ・ 高耐久性商品の開発、長期継続品の拡充
- ・ 低炭素、資源循環に資する商品の開発

#### (4)見本帳の回収・リサイクル体制の構築と拡大

# 環境マネジメント推進体制

当社の環境マネジメント推進体制は、社長を委員長とし全社を横断的に統括するESG委員会にて環境分科会を設け、課題解決に向けた取り組みの進捗管理を行っています。また、当社はISO14001の認証取得を通じ、環境マネジメント推進体制の継続的改善に努めています。

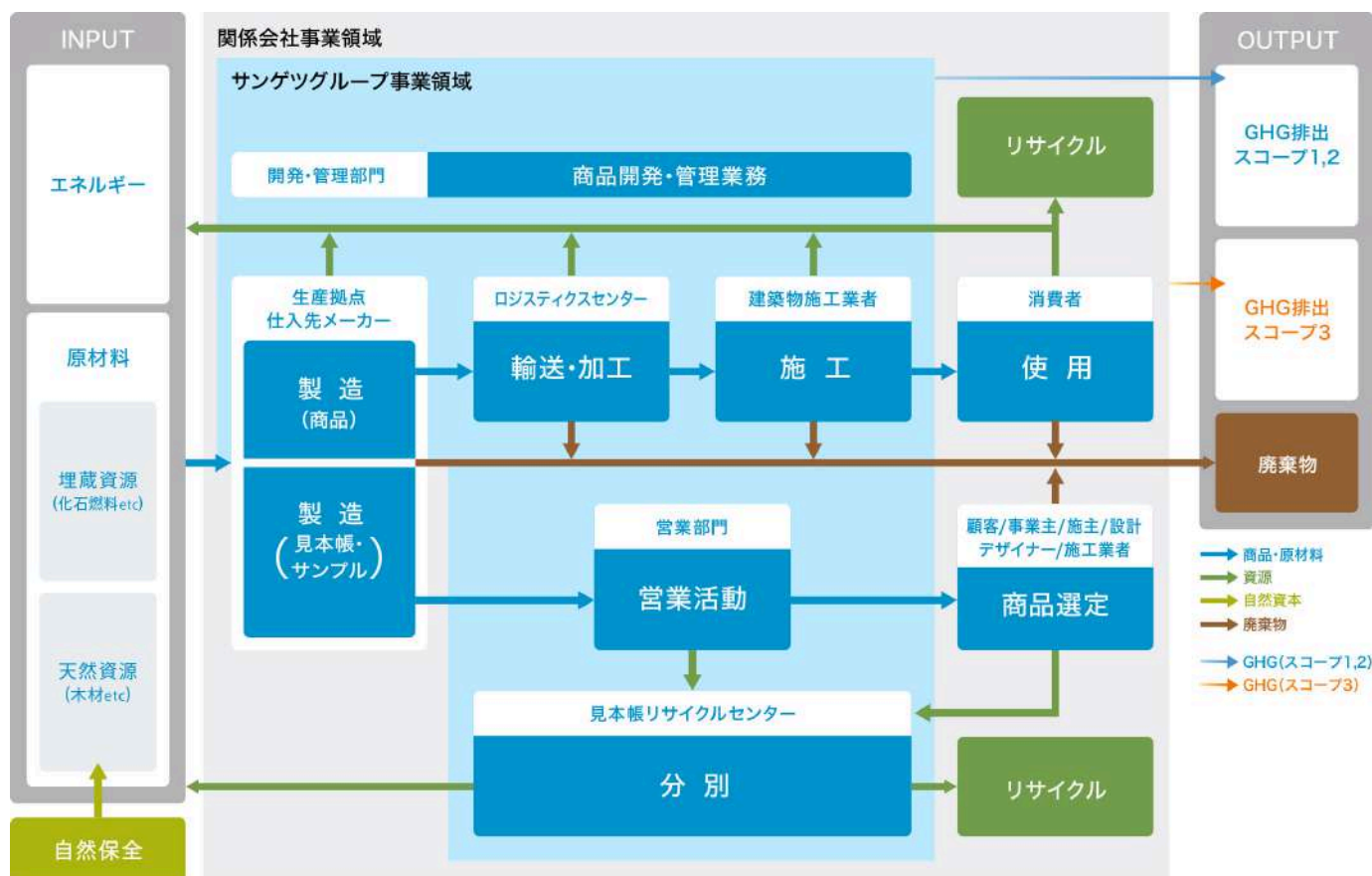
環境マネジメントシステムを統括するISO管理責任者のもと、これを補佐するISO事務局を設置し、各事業所において環境活動を実施しています。直近では2025年8月に「維持」審査を受け、「認証維持」ととなりました。（認証範囲の従業員比率：29.6%）



※ISO14001の認証範囲（本社、中部支社、中部ロジスティクスセンター）

## 環境負荷の状況

当社は、より良い空間を提供する企業として、環境保全への取り組みを重要な責務と位置付けています。事業活動に伴う環境負荷の低減はもとより、グループ各社や関係会社と連携し、持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めています。商品や見本帳の製造に際しては、エネルギーおよび原材料を適切に管理・使用し、壁紙においてはFSC認証木材など持続可能な天然資源の活用を通じて、責任ある調達を推進しています。また、製造から輸送、加工、施工、使用に至る各段階で発生する温室効果ガス（GHG）および廃棄物についても、その発生量を最小限とすべく、再生可能エネルギーの導入拡大や、各工程で発生する端材の回収・リサイクル体制の構築・強化、さらには低環境負荷商品の開発などにより、環境負荷の緩和を推進しています。



## 環境面におけるサプライチェーンマネジメント

サンゲツグループは、自社だけでなく仕入先も含めて、環境をはじめとするESGの観点で取り組みを推進していくことが、持続可能な社会の実現に不可欠であると考えています。そのため、当社グループの調達に関する基本的な考え方をまとめた「サンゲツグループCSR調達方針」および、お取引先様に取り組みをお願いする「サンゲツグループお取引先さま向けCSRガイドライン」を策定し、すべての仕入先に展開しています。さらに、毎年「CSR調達セルフ・アセスメント質問表」への回答を仕入先にお願ひし、環境法令に関する遵守状況やGHG、廃棄物、生物多様性など環境への取り組み状況を確認しています。いただいた回答を踏まえ、必要に応じて現地確認や改善・是正対応の要請等を行うことで、仕入先とのサステナビリティ向上に努めています。



# 気候変動（TCFD提言に基づく情報開示）

## 気候変動に関する考え方

地球温暖化による気候変動は、人間の生活や自然の生態系にさまざまな影響を与えています。その地球温暖化の主たる原因は温室効果ガス（GHG）であり、このGHGを削減することは企業の社会的責任であると考えています。当社はパリ協定の趣旨と目標に賛同し、パリ協定に沿ったGHG排出量の削減目標を設定しています。具体的には、GHG排出量に関する削減目標を、2029年度にグループ全体で55%削減（2021年度比）、サンゲツ単体でカーボンニュートラルと掲げており、目標達成に向けたさまざまな施策を推進しています。Scope1,2においては、省エネと、可能な限り自社でエネルギーを創出する創エネに注力し、計画的な再生可能エネルギーへの切替と残存する排出量のオフセットにより、目標達成を目指します。また、当社の事業活動によるGHG排出の9割以上がScope3に該当しており、サプライチェーン全体でのGHG排出量削減の取り組みがより重要となっています。特に、全体の8割以上を占めるカテゴリ1（購入した製品、サービス）での排出状況を可視化するため、仕入先へのエネルギー調査やエンゲージメントを通じて、排出量削減に取り組んでいます。

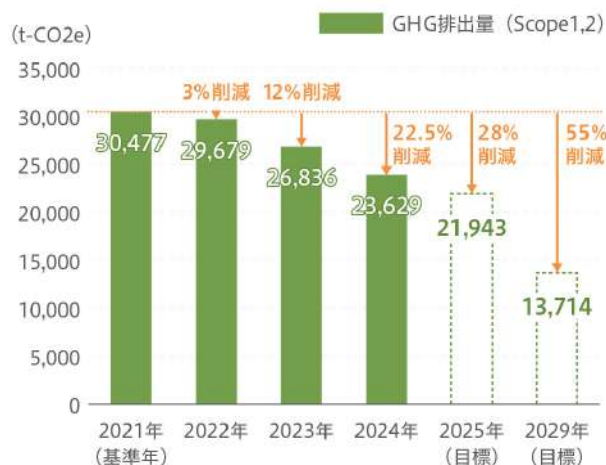
## 目標・実績

### GHG排出量（Scope1,2）

サンゲツグループ 基準年度2021年度：30,477t-CO<sub>2</sub>e

サンゲツグループGHG排出量

2024年度	目標	24,077t-CO <sub>2</sub> e	2021年度比 <b>21%削減</b>
	実績	23,629t-CO <sub>2</sub> e	2021年度比 <b>22.5%削減</b>
2025年度	目標	21,943t-CO <sub>2</sub> e	2021年度比 <b>28%削減</b>
2029年度	目標	13,714t-CO <sub>2</sub> e	2021年度比 <b>55%削減</b>

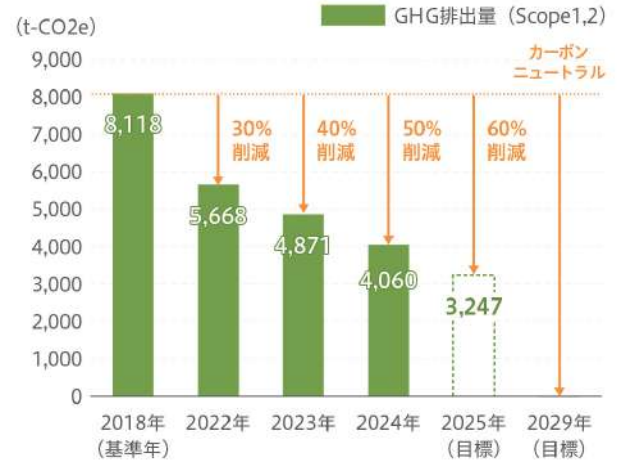




サンゲツ単体 基準年度2018年度：8,118t-CO<sub>2</sub>e

2024年度	目標	4,059t-CO <sub>2</sub> e	2018年度比 <b>50%削減</b>
	実績	4,060t-CO <sub>2</sub> e	2018年度比 <b>50%削減</b>
2025年度	目標	3,247t-CO <sub>2</sub> e	2018年度比 <b>60%削減</b>
2029年度	目標	カーボンニュートラル	

サンゲツ単体GHG排出量



エネルギー消費量

サンゲツグループ 基準年度2021年度：532,410GJ

2024年度	目標	516,438GJ	2021年度比 <b>3%削減</b>
	実績	559,768GJ	2021年度比 <b>8.4%増加</b>
2025年度	目標	511,114GJ	2021年度比 <b>4%削減</b>

サンゲツグループエネルギー消費量



サンゲツ単体 基準年度2018年度：148,151GJ

2024年度	目標	140,743GJ	2018年度比 <b>5%削減</b>
	実績	117,339GJ	2018年度比 <b>20.8%削減</b>
2025年度	目標	139,262GJ	2021年度比 <b>6%削減</b>

サンゲツ単体エネルギー消費量



## SBT認定取得に向けて

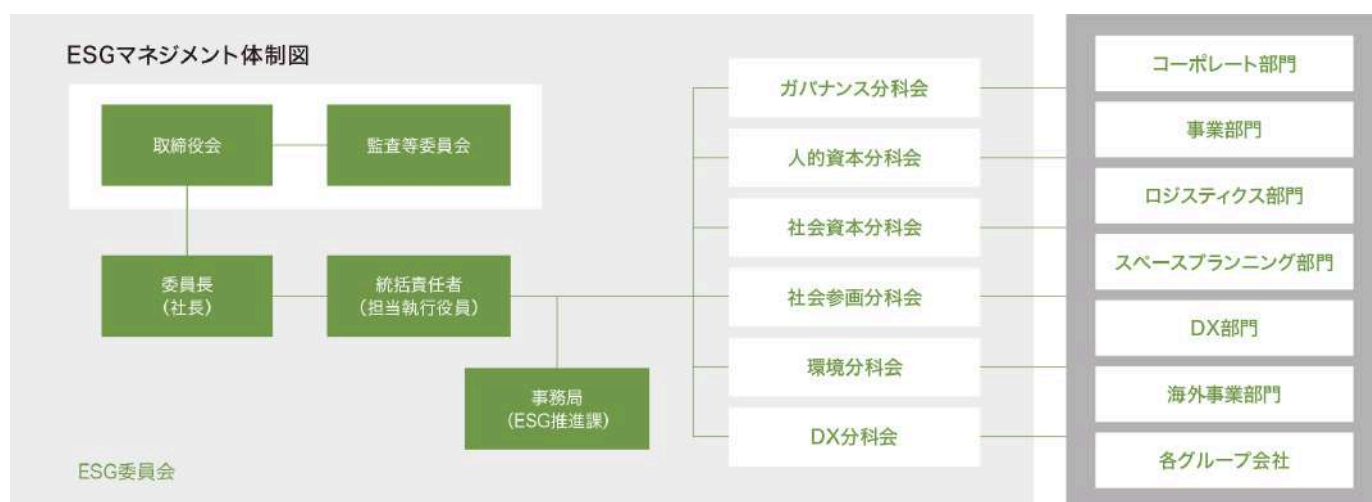
当社は、気候変動対策を経営の重要課題と捉え、2025年3月に「SBT（Science Based Targets）イニシアティブ」に対してコミットメントレターを提出しました。国際的な水準に基づいた温室効果ガス削減目標の認定取得および、サプライチェーン全体で排出されるGHG削減に貢献する取り組みを推進していきます。

## 報酬への気候変動課題の反映

当社は、より中長期的な視点でESG活動を推進するため、ESG推進課が所属するコーポレート部門の担当執行役員の基本報酬における貢献評価倍率に、GHG排出削減目標の達成状況を反映させています。これにより、GHG排出削減の取り組みと経営層のインセンティブを連動させ、サステナビリティ経営の強化を図ります。

## ガバナンス

気候変動への対応は、社長を委員長とするESG委員会のもとに設置した環境分科会が行っています。環境分科会の構成は、環境施策の企画・立案・実行を担うコーポレート部門、商品開発・調達を担うスペースプランニング部門、物流・配送を担うロジスティクス部門、営業を担う事業部門などさまざまな部門が参加しています。分科会では、気候変動に関するマテリアリティに対し、削減計画の策定、施策の検討や実行といった対応を進めています。これらの取り組みは四半期ごとに進捗状況をレビューし、取締役会にて年2回の進捗状況に関する管理・監督を行う仕組みとしています。取締役会においては、取締役に求められるスキルとして「サステナビリティ・ESG」を掲げ、気候変動をはじめとする環境分野に対する監督機能が発揮される体制を構築しています。



採用シナリオ

当社では、気候変動による将来への不確実な影響に対応するため、TCFDが提言するシナリオ分析を実施しました。今後は、対象事業のさらなる拡大や、リスク・機会の網羅性の向上、シナリオ分析の精緻化などにも取り組んでいきます。

気温上昇推定値	1.5℃	4℃
採用シナリオ	SSP1-1.9	SSP5-8.5
採用理由	当社グループ事業の大半を占める日本が掲げる2050年ネット・ゼロ（1.5℃目標）に整合したシナリオであり、移行リスクが高い	最も極端な状況を想定するため、物理的な影響が最も大きいシナリオを採用
対象事業	サンゲツ単体の国内インテリアセグメント・壁装材・床材・ファブリック	
分析時間軸	～2030年	

SSP：(Shared Socioeconomic Pathways) 共通社会経済経路

リスクと機会

財務影響度：小（10億円未満）、中（10億円以上50億円未満）、大（50億円以上）

項目		内容	財務への影響	
			1.5℃	4℃
移行リスク	法規制	<b>GHG排出規制</b> <ul style="list-style-type: none"><li>炭素税の拡大によりGHG排出量に応じコストが増加する</li></ul>	小	
	市場	<b>消費者行動の変化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>環境に配慮したエシカル消費の拡大により、生産時のCO2排出量が高い製品や、使用時の省エネ効果の低い製品のニーズが減少し、売上が減少する</li></ul>	中	
		<b>仕入コストの増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>仕入先への炭素税導入の影響や、脱炭素商品の開発コスト増加により、仕入コストが増加する</li></ul>	大	
		<b>オフセットのコスト増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>各企業のカーボンニュートラル達成に向け、カーボンクレジットや電力証書の需要が高まり、オフセットのコストが増加する</li></ul>	小	
物理リスク	急性	<b>供給機能の停止</b> <ul style="list-style-type: none"><li>台風やゲリラ豪雨など自然災害（洪水や浸水、強風）の激甚化により、納期通りに商品供給ができなくなる</li></ul>		小
		<b>保有施設の改修・BCP対応コスト増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>台風やゲリラ豪雨など自然災害（洪水や浸水、強風）の激甚化により、保有施設が棄損し、改修するためのコストが増加する</li><li>自然災害の激甚化に備えた保有施設の改修や、ある拠点の供給が停止した時に他の拠点でカバーするといったBCP対応コストが増加する</li></ul>		小
機会	製品	<b>低環境負荷商品の売上増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>生産時のCO2フリー商品のラインアップを拡充することで、Scope3の削減を目指す顧客や環境意識の高い顧客からの受注が増加する</li></ul>	大	

## シナリオ分析の結果

将来的に、今回分析したどちらのシナリオが訪れても、適切な対応を取り、持続的な成長を実現できるよう、分析結果をもとに導き出した対策を実施していきます。

シナリオ	分析結果	対策
1.5℃	<ul style="list-style-type: none"><li>炭素税の導入による仕入コストの増加リスクが大きく、次いで消費者行動の変化により、生産時・使用時の環境負荷の高い製品の売上損失の影響が大きいくことが分かった</li><li>一方、機会は低環境負荷商品のラインアップ拡充による売上増加の影響が大きくなると計算された</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>省エネ、創エネの取り組み促進</li><li>サプライヤーと協働したGHG排出量の削減</li><li>低環境負荷商品の販売拡大</li></ul>
4℃	<ul style="list-style-type: none"><li>気温上昇に伴う台風やゲリラ豪雨により、供給機能の停止や保有施設の改修・BCP対応コスト増加のリスクが小さいながらもあると計算された</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>BCP体制の構築(建物の災害対策実施、原材料購入先の複数社化等のサプライチェーンのリスクマネジメント強化)</li></ul>

## リスク管理

当社では、気候変動への対応をマテリアリティとして選定し、ESG委員会での活動を通じてこれらの改善に向けたPDCAサイクルを回しています。各分科会の取り組みの評価においては、年4回のESG委員会でのレビューを通じ、継続的な改善と課題の修正・追加を行っています。

また当社は、コーポレートガバナンスに係る各種委員会の一つとして、全社リスク管理委員会を設置し、事業活動におけるリスクを定期的に洗い出し、重要リスクの特定とその管理体制の強化を行っています。本リスク管理体制の中で、気候変動リスクを主要リスクとして取り扱っています。

＞気候変動を含めた全社のリスクマネジメント

[https://www.sangetsu.co.jp/company/sustainability/governance/risk\\_management.html](https://www.sangetsu.co.jp/company/sustainability/governance/risk_management.html)

# カーボンニュートラル実現に向けて

地球温暖化による気候変動は、人間社会と生物多様性を含む生態系に大きく影響するものであるとIPCC※の報告にあり、その地球温暖化の主たる原因はGHG排出量の増加と言われています。パリ協定では、途上国を含む全ての主要排出国にGHG排出量削減を求め、日本政府は2050年の排出量実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目標としています。

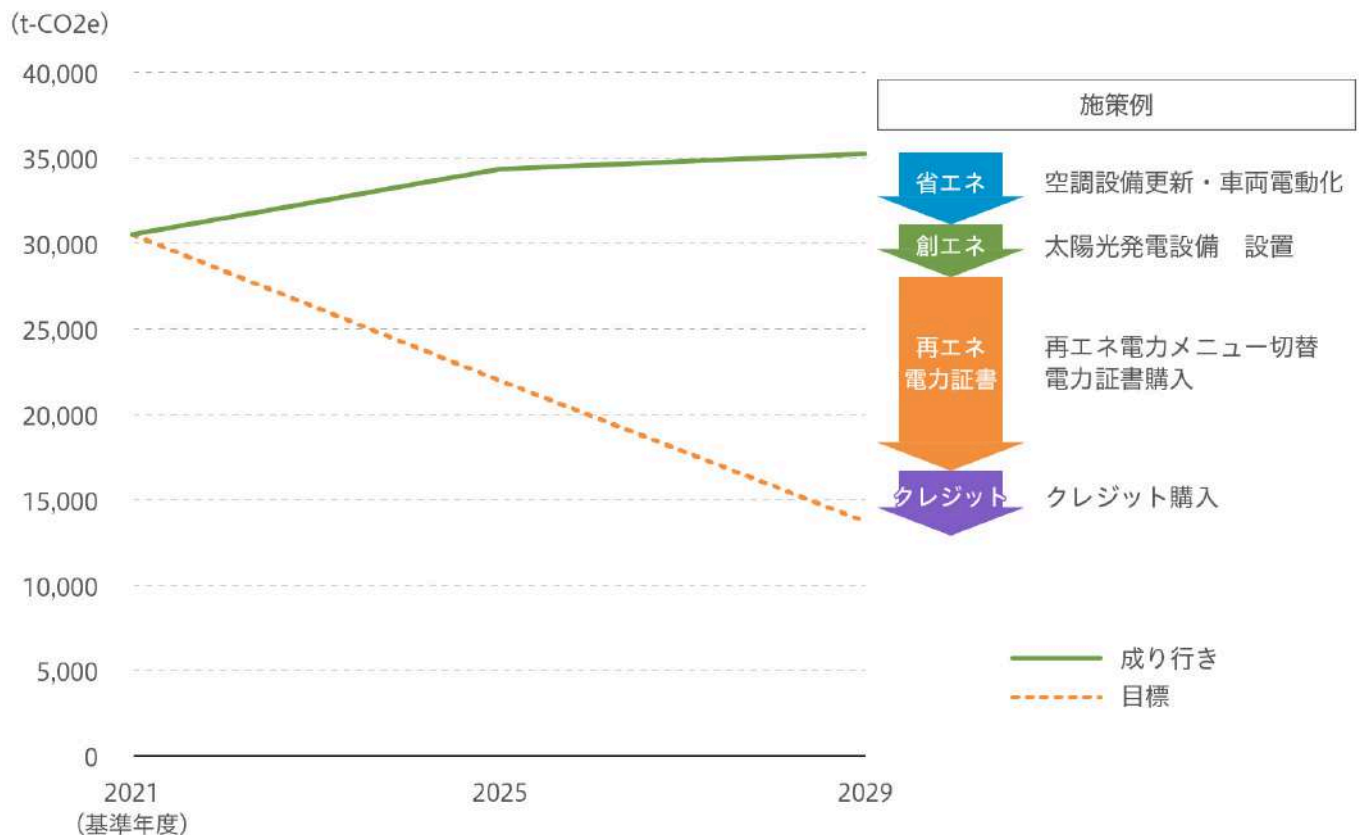
こうした中で、企業としてその土台ともいえる環境の保全は必須の取り組みであるという認識のもと、GHG排出量の2030年3月期の目標について、サンゲツグループでは55%削減（2021年度比）、サンゲツ単体ではカーボンニュートラルと設定しました。

当社のGHG排出量削減の取り組みは、これまでも事務所やロジセンターの省エネ設備更新、営業車両のハイブリッド化やエコドライブの推進、CO2排出係数の少ない新電力への切替などを行ってきましたが、2030年の目標達成に向けて、省エネ、創エネ、再エネ、クレジットの4つの施策を中心に削減に取り組んでいきます。省エネは自社物件の空調設備更新、創エネは太陽光発電設備の設置、再エネでは営業車両のハイブリッド化およびEV化、再エネ電力メニューへの切替、クレジットではクレジットの購入といった各施策を計画しています。それぞれの施策を着実に実施し、2030年の目標達成を実現します。

※IPCC（Intergovernmental Panel on Climate Change）：気候変動に関する政府間パネル。

世界中の科学者の協力のもと、定期的に報告書を作成し、気候変動に関する最新の科学的知見の評価を提供している組織。

## GHG排出削減 ロードマップ（サンゲツグループ）



# GHG排出量／エネルギー消費量の削減に向けた取り組み

## 社有車両における低燃費への推進

2015年から「エコドライブ活動」をスタートし営業車両においては、ハイブリッド車両を中心とする環境対応／低燃費車への全面移行を進めています。

また、全営業車両にGPSを利用したSmartDrive Fleetを装備させ、急加速・急ブレーキ・スピード超過等の情報を本社にて収集し、安全管理とともに温室効果ガスの削減に繋がるエコドライブを強化しています。

ガソリン使用量の推移および低燃費車(HV・EV)比率



## 太陽光自己託送システムで創エネを促進

2024年2月より、中部LCⅡの太陽光発電設備で発電された電力の一部を、愛知県名古屋市にある本社・中部支社へ送る自己託送を開始しました。自己託送とは、自社が保有する施設で発生した再生可能エネルギーを、電力会社の送配電網を通じ、遠隔地にある自社施設で使用する仕組みです。中部LCⅡの太陽光パネルで年間1,230MWhの発電量を見込んでおり、総発電量の約53%を中部LCⅡと隣接する中部LCⅠで自家消費しています。さらに、このたびの自己託送の開始により、総発電量の約36%をLCⅡから離れた名古屋本社・中部支社で使うことが可能になりました。これにより、サンゲツ単体では約12%の電力使用削減につながっています。



## 電力調達におけるGHG排出量削減

当社のScope1,2におけるGHG排出量のうち、約7割が電気使用によるものです。GHG排出量の削減にあたっては、電気使用量の削減だけでなく、GHG排出量の少ない電気を購入することもGHG排出量を削減する1つの手段と考えています。当社では2016年1月より、電気を多く使う高圧電力の拠点を、CO2排出係数の少ない電力会社からの供給に切り替えを行っています。

発電した電力の別拠点での利用（自己託送）、電力調達における再生可能エネルギー電力メニューへの切替を開始し、CO2フリー電力を使用した事業所は2024年度末時点で10拠点となりました。



## 物流におけるGHG排出量削減

当社は、グループ全体で持続可能な社会の実現を目指し、サプライチェーン全体におけるGHG排出量削減に積極的に取り組んでいます。

従来、当社グループの主要な壁紙工場であるクレアネイトの拠点は東日本のみで運営していましたが、壁紙の原材料仕入先は西日本に集中していました。従って、西日本の顧客へ製品を供給する際には、原材料を一旦東日本の工場へ輸送し、生産後に再び西日本へ輸送する必要があり、この物流プロセスがGHG排出量増加の要因となっていました。

このような課題に対して、当社では2024年に広島に新たな量産品壁紙工場を竣工しました。これにより、原材料や製品の長距離輸送が不要となり、特に西日本地域における物流プロセスで発生するGHG排出量の大幅な削減が期待されています。今後もサプライチェーン全体でのGHG排出量削減に向けて、グループ会社と一体となって取り組みを推進していきます。

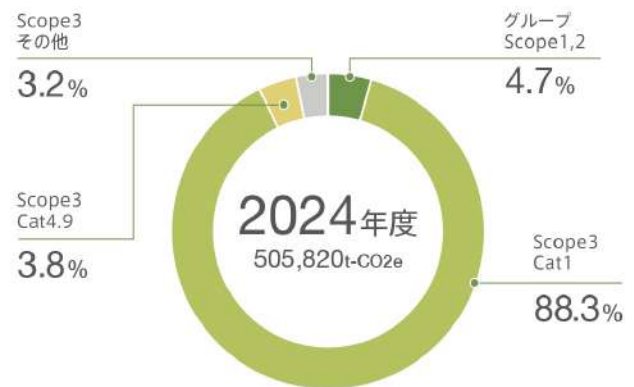


## Scope3への対応

当社では、事業活動が及ぼす環境影響を抑制すべく、2017年度よりサプライチェーン全体におけるGHG排出量「Scope3」の算定を開始しました。サプライチェーンにおけるCO2排出量を見える化することで、GHG排出量の継続的な削減に貢献していきます。

詳細はこちら：P48「GHG排出量（Scope3）」

### グループ全体でのGHG排出量（Scope1,2,3）の内訳



Cat1：購入した製品サービス

Cat4：輸送、配送（上流）

Cat9：輸送、配送（下流）



## 資源循環に関する考え方

世界的に人口増加を背景とした経済発展や利便性の追求により、資源消費のスピードが加速する中、資源枯渇リスクを軽減するためには、資源循環の取り組みが重要です。当社は、これまで取り組んできた廃棄物・排出物の最小化を継続しつつ、再生材の利用促進や、リサイクルしやすい低環境負荷商品の拡大といった資源循環の取り組みを強化しています。

当社商品の主素材の一つであるポリ塩化ビニル（塩ビ）は、優れた加工性・耐久性・経済性を併せ持つ素材として、建築業界で広く使用されていますが、複合的な素材として活用されていることによって、リサイクルが困難な状況となっています。塩ビのリサイクル化は当社だけでなく業界全体の課題であり、素材メーカーやリサイクル業者と連携した取り組みを推進していきます。

## 目標・実績

### 総廃棄物量削減

サンゲツ単体 基準年度2021年度：4,283t

2024年度	目標	4,197t	2021年度比 <b>3%削減</b>
	実績	4,699t	2021年度比 <b>9.7%増加</b>
2025年度	目標	4,112t	2021年度比 <b>4%削減</b>

### サンゲツ単体総廃棄物量



### リサイクル率

サンゲツ単体

2024年度	目標	88%
	実績	84.1%
2025年度	目標	90%以上

### サンゲツ単体リサイクル率



# リサイクルシステムの構築

## 広域認定制度の活用

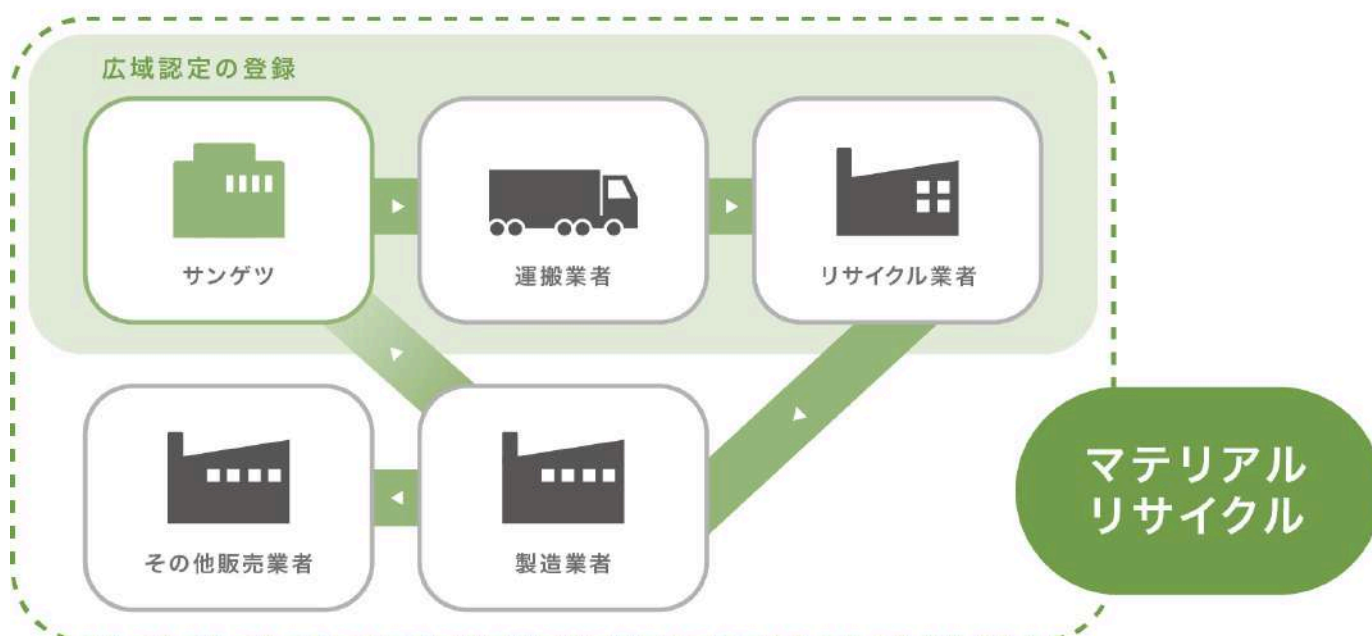
当社は、リサイクルの取り組みを一層強化するため、ロジスティクスセンターで排出されるカット端材やデッドストックなど未利用材を対象とした「広域認定」を2023年に取得しました。広域認定とは、「廃棄物処理法」に基づく特例制度であり、この認定に登録した当社および廃棄物の処分に関わる事業者は、従来必要だった都道府県ごとの廃棄物収集運搬業・処分業の許可を不要とし、全国で指定した廃棄物の回収・リサイクルが可能となります。この認定取得は、これまで一部しかリサイクルできていなかった未利用材のリサイクルを大きく前進させるものです。今後は、リサイクル業者および再資源化した原料を使用する製造業者との連携強化により、自社内での循環システムの拡大を推進します。

## 廃棄物の流れ（広域認定取得前後の比較）

### 従来の産業廃棄物処理ルート



### 広域認定下での処理ルート



## カーペットタイル・リサイクル



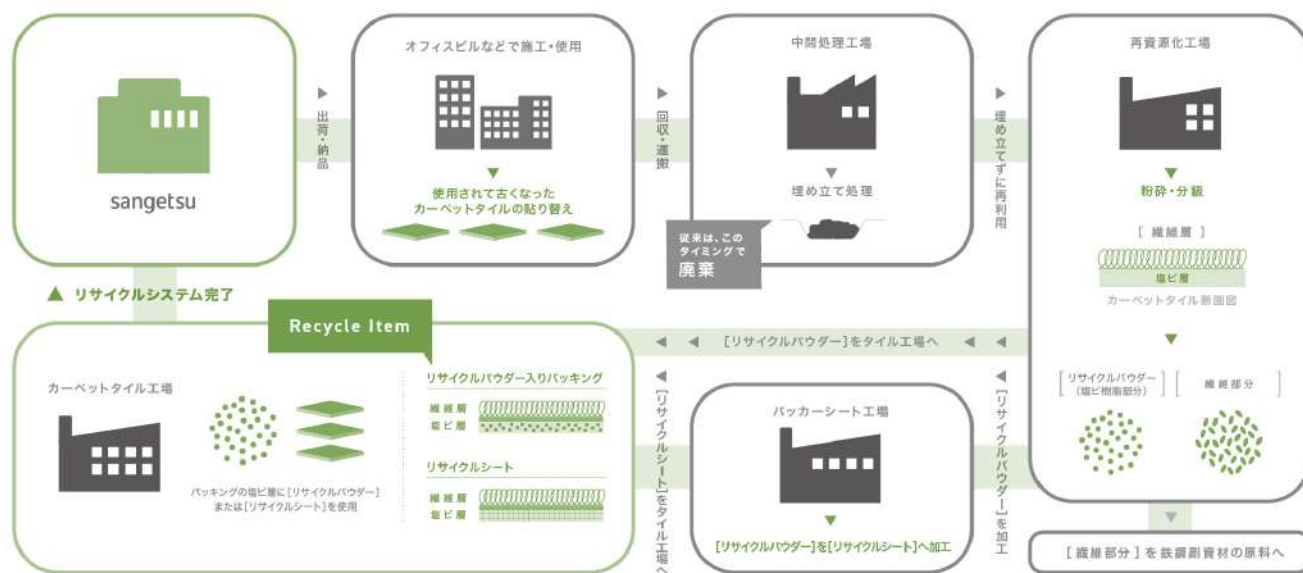
当社のカーペットタイルは、廃カーペットタイルを特殊技術によりリサイクルした再資源原料をバックング層に使用した環境配慮商品です。

また、カーペットタイル（Double Eco + Wellness）は、表面のパイルと裏面のバックング材にダブルでエコ素材を使用することで、環境負荷の低減に貢献しています。パイルには漁網やカーペット廃材などをリサイクルした100%リサイクル糸「エコニール(R)」を採用し、裏面のバックング材には、使用済カーペットタイルの廃材を再利用した「リサイクルバックング」を用いることで、CO2排出量を当社従来品比で最大約61%削減します。また、再生材比率は最大約49%を実現しています。

## カーペットタイル・リサイクルの仕組み

### Sangetsu Carpet Tile Recycle System

サンゲツ カーペットタイル リサイクルシステム



## カーテン・リサイクル



当社では、環境保全への取り組みの一環として2000年10月より「サンゲツカーテン・エコプロジェクト」を進めています。下記のような専用タグラベルが付いているカーテンについては、当社が責任を持って回収し、資源循環の観点から、再び原料として商品に生まれ変わらせます。



表面（例）



裏面（例）

## 回収の手順



回収したカーテンは素材、加工状態の違いによってそのリサイクル処理法が異なります。当社では、再資源化するケミカルリサイクル、固形燃料など熱源にするサーマルリサイクルに分類しています。

カーテンリサイクルの申込フォームはこちら

> [https://biz.sangetsu.co.jp/regist/is?SMPFORM=qcti-litdqf-4e0d7f65fd7c6fd3ec0028fc4e82db9d&\\_gl=1\\*1xxoh15\\*\\_ga\\*MTEzMzI1ODcxMi4xNjk4ODE5MTE5\\*\\_ga\\_84EXXWDYNY\\*MTcyNDM5MDEwNy40MjUuMS4xNzIOMzIxNjI2LjU1LjAuMA..&\\_ga=2.257250249.379035191.1724030649-1133258712.1698819119](https://biz.sangetsu.co.jp/regist/is?SMPFORM=qcti-litdqf-4e0d7f65fd7c6fd3ec0028fc4e82db9d&_gl=1*1xxoh15*_ga*MTEzMzI1ODcxMi4xNjk4ODE5MTE5*_ga_84EXXWDYNY*MTcyNDM5MDEwNy40MjUuMS4xNzIOMzIxNjI2LjU1LjAuMA..&_ga=2.257250249.379035191.1724030649-1133258712.1698819119)

## リサイクル活用法



※出荷ロスなど端材のリサイクルも含みます。

※回収したカーテンは商品のリサイクル方法ごとに分別したうえで、リサイクルを行っています。

※リサイクル活用法については、技術革新やその他の理由で変更になる場合があります。

## 「TUTTI®※」とのコラボレーションで、使用済みのカーテンをリサイクル

「TUTTI（トゥッティ）」とは、ポリエステル繊維を主体に人工ゼオライトなどを特殊配合した”繊維でできた土”です。サンゲツはスタイルム瀧定大阪株式会社と協働し「サンゲツカーテン・エコプロジェクト」により回収されたポリエステル製のカーテン生地を原材料の約20%に使用、オリジナル版の「TUTTI」を製作しています。使用済みのカーテンを活用し新たな価値ある製品に再生する、マテリアルリサイクル商品です。

※「TUTTI」はスタイルム瀧定大阪株式会社が展開するポリエステル繊維リサイクル培地の登録商標です。

### 使用済みカーテンが「TUTTI」に生まれ変わるまで



「サンゲツカーテン・エコプロジェクト」により回収されたカーテン

カーテンを粉碎し、人工ゼオライトなどと混練

完成したオリジナル「TUTTI」



PARCs に施工した「TUTTI」



## 見本帳リサイクル

当社見本帳は、約12,000点にもおよぶ多数の商品をお客さまにご覧いただくための重要なビジネスツールである一方、年間で約150万冊発刊されており、使用後の見本帳はさまざまな場所で、リサイクルされずに廃棄されています。この環境負荷への対応として、見本帳のリサイクルを行っています。2021年3月に設置した「見本帳リサイクルセンター」では、さまざまな素材が混在している当社見本帳を分別し、マテリアルリサイクルとして資源循環を行っています。

また、同センターにおける見本帳リサイクルの作業スタッフには、障がい者を雇用することで、障がい者の活躍を支援しています。

今後も、さらなる作業の効率化や関連事業者との連携を進め、見本帳リサイクルの取り組みを推進します。

### 使用済み見本帳のリサイクル冊数 (2024年度)



本社内見本帳リサイクルセンター



分解作業の様子



分解した現品のチップ

### 見本帳リサイクルを促進し、環境負荷を低減

見本帳リサイクルセンターでは、顧客より回収した見本帳を、リサイクルを行うための前工程として、表紙、台紙、サンプルチップに分解し、素材ごとに分別します。分別された素材は、その後、リサイクル専門業者にて、再生塩ビ、再生紙、再生プラスチック、セメント材料へとマテリアルリサイクルされます。

2023年度以降は対象地域を拡大し、見本帳のリサイクル処理キャパシティの拡大とともに、デジタル見本帳の活用による見本帳発刊総数の削減を進めることで一層の環境負荷低減に取り組めます。

### 見本帳リサイクルフロー図



## ● TOPICS

### ミサワホームとの協業

当社とミサワホーム株式会社（以下：ミサワホーム）は、100%リサイクル原料を使用した人工木ウッドデッキ「フォレストウッド™」を共同開発しました。本製品は、当社の「見本帳リサイクルセンター」で分解して得られる見本帳のバインダー部材をリサイクル原料の一部とし、ミサワホームの再生木材リサイクル技術により、アップサイクルしたエクステリア商品です。天然木のような質感と耐久性を持ち、全ての原料がリサイクル可能です。建築業界においては、環境への意識の高まりから、社会の持続可能性を考慮した建築資材へのニーズが拡大しています。両社は「空間提案」という共通事業領域における共創を通じて、持続可能な資源循環型社会の実現に貢献していきます。



人工木ウッドデッキ フォレストウッド™  
ブラウン GW-10004



再生木材リサイクルチップ



回収した見本帳から分解したバインダー部材

### ■ 展示品や廃棄商品の有効活用



ショールーム展示品や廃棄商品については、保育園や学童保育所、社会活動を行うNPOに寄付しています。

これらのカーテン生地は、従来は廃棄処理されていたものですが、各施設では備品や玩具への装飾、園児・児童達の創作品として利用されています。

また、災害時の避難活動を支援するNPOでは間仕切りのカーテンとして有効活用されています。

## 自然との共生に関する考え方

当社の事業活動は、主要商材である壁紙の原材料として森林資源を利用するなど自然の恵みを享受している一方、廃棄物や水の使用により環境へ負荷を与えています。自然の恵みなくしては当社の事業を継続することはできないため、気候変動・資源循環対応を柱に事業による環境負荷を低減させ、生物多様性の損失を止めて回復軌道に乗せるネイチャーポジティブに貢献していきます。また、事業活動以外でも、事業所周辺の生態調査やNPO法人与連携した活動を進めており、事業活動と自然共生の両立を目指しています。

## 目標・実績

### FSC認証壁紙比率

2024年度	実績	0%
2025年度	目標	8%

## 自然との共生に関する取り組み

### FSC®認証壁紙



当社は、持続可能な社会の実現に向け、調達面での環境負荷低減を目的に、国内初のFSC®認証\*の塩ビ壁紙の採用・販売を開始しました。国内壁装材の主流である塩ビ壁紙でFSC®認証を取得したことは、壁紙業界における、原材料の調達の環境負荷低減に向けた第一歩であると捉えています。今後も、FSC®認証商品のラインアップ拡充に加え、環境に配慮した商品の開発・提供をさらに強化し、持続可能な社会の実現に貢献します。(FSC®N004634)

※ Forest Stewardship Council®が運営する国際的な森林認証制度で、適切な森林管理と、森林から得られた木材や木材製品が、違法伐採などから得られたものではないことを認証するもの





生育中のシナモン

当社は、サンゲツグループ長期ビジョン【DESIGN 2030】に掲げる、「地球環境を守るサステナブルな社会の実現」に向けた取り組みの一環として、2023年度よりベトナム北部での植林活動支援を開始しました。焼畑跡地等の荒廃地へシナモンの木を植樹することで、土壌侵食の防止や水資源の保全、生物多様性の保全、森林面積の増加等を図るほか、成林後には、収穫により地域住民の生計向上に貢献することを目的としています。また、2025年度より、事業活動と環境保全を結び付けた活動として、木目調の壁装材の一部において、その販売数量に連動した寄付を行う仕組みを構築しました。具体的には、木目調の壁装材の販売数に応じて、1平米あたり0.5円を森林保全活動に寄付します。顧客に対象となる木目調壁装材を採用いただくことで、森林保全活動への支援とCO2排出量の削減につながる仕組みであり、今後も自然から得たインスピレーションを大切に魅力的な商品開発を進めるとともに、新たな寄付モデルを通じた継続的な支援によって「みんなで いつまでも 楽しさあふれる」社会の実現に向けた取り組みを続けていきます。

### TOPICS

#### ビオトープ

当社およびエクステリア事業を担うグループ会社のサングリーンは、名古屋市が推進する「都心の生きもの復活事業」の2024年度の実施団体として採択されました。この取り組みの一環として、サンゲツ本社敷地内に多様な生きものが集まる空間「ビオトープ」を整備しました。気候変動や都市化の進行により失われつつある地域独自の生物多様性を守るため、周辺の自然環境をつなぐ「生物回廊」になることをコンセプトにしており、在来種の植物を植えることにより、名古屋固有の生きものが住みやすい環境を提供します。また、このビオトープは地域住民の方も見学できるよう開放しており、社員や地域の子どもたちが自然に触れる機会の提供や、皆さまの憩いの場となることを目指しています。



鳥類や昆虫類をビオトープに呼び込み、堀川と幅下公園をつなぐ生物回廊を目指します。



ビオトープ

## 外部団体との連携

自然共生の取り組みにおいては、地域の自然環境に応じたロケーション単位での取り組みや、外部団体との連携が重要と考えています。当社は、行政をはじめNPO法人・市民団体と継続的に連携を図り、生物多様性の促進に努めています。

### あいち生物多様性企業認証制度



本制度は、「あいち生物多様性戦略2030」に基づき生物多様性に関する取り組みを推進する愛知県が創設した制度であり、地域社会の中で生物多様性の保全に積極的に取り組む企業を認証するものです。当社は、2025年度の認証企業として表彰されました。今回の認証は、本社敷地内におけるビオトープの設置・維持管理や、地域の生物多様性保全を目指す「名東自然倶楽部」との連携による継続的な自然保全活動などが評価されたものであり、引き続き事業エリアを中心とする各地域において自然保全活動を推進します。

### なごやネイチャーポジティブパートナー



名古屋市がネイチャーポジティブの実現に向けた意欲を表明した「ネイチャーポジティブ宣言」に賛同し、「なごやネイチャーポジティブパートナー」として認定されました。

なごやネイチャーポジティブパートナー制度とは、「ネイチャーポジティブ宣言」に賛同し、ともに取り組む事業者・団体を、「なごやネイチャーポジティブパートナー」として認定し、ネイチャーポジティブの実現に向けた取組促進と機運の向上を目指すものです。

当社は他パートナー企業と共に生物多様性を守ることを目的とした環境保全の取り組みを推進していきたいと考えています。

### 公益財団法人日本自然保護協会



「自然のちからで、明日をひらく。」を活動メッセージに掲げ、日本の美しく豊かな自然や文化を守り、育み、活かす活動を行っている日本自然保護協会の活動主旨に賛同し、法人特別会員に加入するとともに、生物多様性の保護に関わる活動の実践及び、自然保護活動に参加しています。



日本自然保護協会の取り組みである「砂浜ムーブメント」と連携し、サンゲツのボランティア活動として2021年より海岸の清掃活動を実施しています。

## 名東自然倶楽部

2022年度より、愛知県名古屋市名東区にある猪高緑地の豊かな自然の保全を行っている団体「名東自然倶楽部」の活動に賛同し、竹の伐採、遊歩道に竹や木のチップを敷設するなどの活動に社員が参加しています。人手不足を課題とする同団体と、環境保全に貢献したい社員の受け皿となる活動を定期的に行うことができる当社のニーズが合致したことから、2023年3月より団体会員に登録し、継続的な支援を実施しています。



## NPO法人なごや東山の森づくりの会



名古屋市のNPO法人なごや東山の森づくりの会が主催する「森づくり活動」に定期的に参加しています。

同団体の活動場所の一つである名古屋市天白区にある天白溪湿地では、かつて東海豪雨で流れ込んだ土砂を取り除き、池や湿地の復元を目指しており、水が干からびる原因となる過剰な常緑樹の間伐やササ刈りなどの作業を一緒に行っています。

# 低環境負荷商品

## 低環境負荷商品に関する考え方

気候変動を中心とする環境問題への対応がグローバルな課題となる中、顧客・消費者も商品選択の軸に環境を据える流れが顕著になってきています。当社が属する建設市場においても例外ではなく、環境対応への取り組みとして、建設後の運用だけでなく、設計段階からのCO2削減や再生材利用を重視した商品選定が行われています。このような顧客のニーズに応えるため、低環境負荷商品の開発・販売に取り組むとともに、当社商品の環境側面を分かりやすく伝えるため、新たに自社基準環境ラベルの策定を進めています。さらに、CASBEEやLEEDといった環境性能評価制度の加対象商品点を拡充することで、環境への取り組みを強化したいお客さまの課題解決をサポートしています。

### 低環境負荷商品の3つのポイント



#### 省資源

商品製造時および使用時における省資源を実現します。



#### 省エネ

インテリアにおいては、主に窓や床面などからの熱損失を軽減することが、省エネにつながります。



#### ロングライフ

商品の寿命を長くすることで、施工から貼り替えまでのサイクルを長くし、ライフサイクルで考えた場合の環境負荷低減を実現します。

## 環境商品インデックス

	商品名	省資源	省エネ	ロングライフ
床材	カーペットタイル「Double Eco + Wellness」	●		●
	原着ナイロンカーペットタイル			●
	フロアタイル2.5mm厚	●		
	「キラリタ」	●		●
	ワックスフリーコーティング 複層シート／ 永久ワックスフリー 単層シート	●		●
壁装材	「メグリウォール」	●		
	「バイオクロス」	●		
	「エコリフレクト」		●	
	フィルム汚れ防止壁紙 バリアタイプ／スーパー耐久性			●
ガラスフィルム	透明遮熱フィルム／低放射ガラスフィルム		●	
	リサイクルPETフィルム「クリエイシア 90」	●		
ファブリック	省エネ多機能カーテン「エコファンク」		●	
	遮熱機能付きレースカーテン／遮熱機能付きロールスクリーン		●	
	カーテン「リイト」／椅子生地「ナイス」	●		●
	椅子生地「トランペ」／「アクアクリーン」	●		●

※主要商品の抜粋です



# 商品の環境ラベル・評価制度

## 環境ラベル

名称	ロゴマーク	内容	対象商品
エコマーク認定商品		エコマークは、第三者機関である公益財団法人日本環境協会の認定により付与される環境マークであり、環境ラベル表示のタイプIとして運営されています。 商品の「生産」から「廃棄」までのライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に付けられます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メグリウォール</li> <li>・ ガラスフィルム</li> <li>・ NT 700</li> <li>・ ホームフロア</li> <li>・ カーテン</li> </ul>
グリーン購入法適応商品		「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」により、一定基準を満たした低環境負荷商品に対しては、「グリーン購入法適応商品」とすることができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガラスフィルム</li> <li>・ ビニル床材</li> <li>・ 繊維系床材</li> <li>・ ビニル床タイル</li> <li>・ 塩ビシート</li> <li>・ カーテン</li> <li>・ ロールスクリーン</li> <li>・ パーチカルブラインド</li> <li>・ ブリーツスクリーン</li> </ul>
GREEN LABEL PLUS (グリーンラベルプラス)		米国カーペット・ラグ協会(CRI: The Carpet and Rug Institute)による認証プログラムであり、ホルムアルデヒドなど13種類の揮発性物質等の放散量について厳格な基準を定め、この基準をクリアした製品に対して与えられます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ナイロン製カーペットタイル</li> </ul>
エコリーフ環境ラベル		エコリーフ環境ラベルは資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまでの製品の全ライフサイクルにわたって、LCA（ライフサイクルアセスメント）による定量的な環境情報を開示する環境ラベルです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NT 700</li> <li>・ フロアタイル</li> </ul>

## CASBEE（建築環境総合性能評価システム）

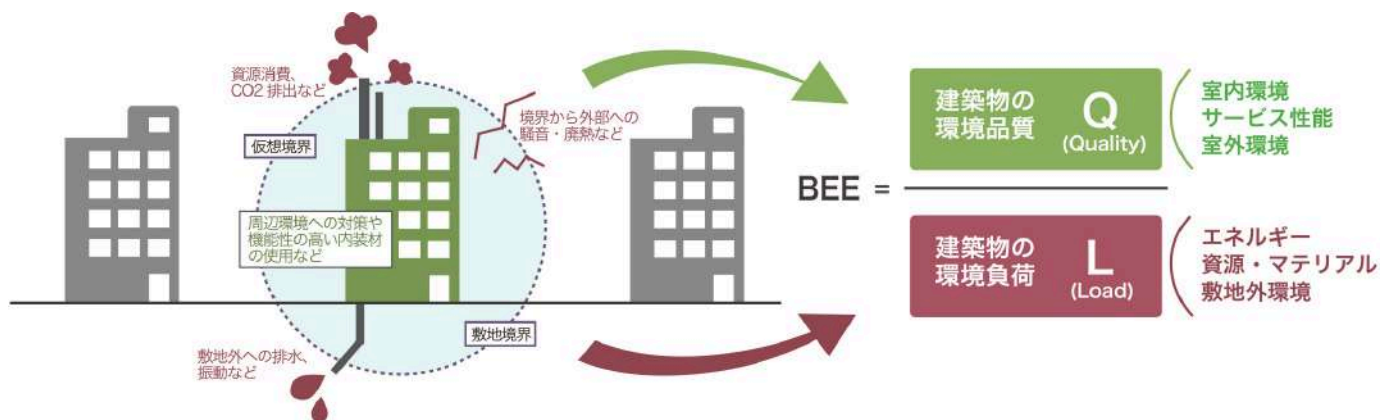
CASBEEは、建物を環境性能で評価し、格付けする手法です。省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価します。

CASBEEによる評価では「Sランク（素晴らしい）」から、「Aランク（大変良い）」「B+ランク（良い）」「B-ランク（やや劣る）」「Cランク（劣る）」という5段階の格付けが与えられます。

CASBEEは、国土交通省の支援のもと産官学共同プロジェクトとして設置された研究委員会において開発されたものであり、①建築物のライフサイクルを通じた評価ができること、②「建築物の環境品質(Q)」と「建築物の環境負荷(L)」の両側面から評価すること、③「環境効率」の考え方をういて新たに開発された評価指標「BEE(建築物の環境効率、Built Environment Efficiency)」で評価すること、という3つの理念に基づいて開発されています。

分類	項目	評価内容	採点基準	サンゲツ対象商品
Q1 室内環境	1. 音環境 1.3 吸音	内装材による吸音のしやすさを評価する	レベル3 壁、床、天井のうち一面に吸音材を使用している レベル4 同 二面に吸音材を使用している レベル5 壁、床、天井に吸音材を使用している ※対象建材の使用面積が各7割以上	カーペット カーペットタイル
	4. 空気質環境 4.1 発生源対策	化学汚染物質による空気質汚染を回避するための対策が充分にとられているか評価する	レベル4 建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料（告知対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆）をほぼ全面的（床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積）に採用している。 レベル5 同（合計の90%以上の面積）に採用している。さらにホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。	フロアタイル フロア カーペット カーペットタイル 腰壁シート 接着剤（ベンリダイン）
Q2 サービス性能	1. 機能性 1.3 維持管理	建材選択において維持管理に配慮すべき内容について評価する	レベル2～5 評価する取り組みに掲げる内容について、該当する取り組み項目の合計数により採点 1) 内装仕上げ：内装面は防汚性の高い仕上げ方法や建材、塗装、コーティングを採用している 2) 内装仕上げ：床面は防汚性の高い建材、塗装、コーティングをしている 3) 内装設計：床面は適度な水を使用して洗浄可能な設計・構造を採用している レベル2～5 同上 4) 内装設計：内装や床面において設計上ホコリの溜まりにくい設計や物を置かない設計を採用している	防汚機能付カーペット 防汚機能付カーペットタイル フロアタイル・フロア（ワックスフリーコーティング品） 汚れ防止壁紙
	2. 耐用性・信頼性 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	主要内装仕上げ材の更新必要間隔を「内装仕上げ材の貼り替えもしくは表面部材の交換などについての必要間隔」とし、その長さを評価する	レベル1～5 更新必要間隔年数によって採点 【官庁官機における耐用年数】 塩ビタイル 20年 / ビニル床シート 20年 タイルカーペット 20年 / ビニルクロス貼り 10年	フロアタイル フロア カーペットタイル ビニルクロス
LR2 資源・マテリアル	2. 非再生性資源の使用料削減 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	躯体材料以外におけるリサイクル資材の使用状況を評価する	レベル3 リサイクル資材を1品目用いている レベル4 同 2品目用いている レベル5 同 3品目以上用いている 【リサイクル資材】 エコマーク認定商品（日本環境協会） グリーン購入法特定調達品目（グリーン購入法）	エコマーク認定商品 グリーン購入法適合商品
	2. 非再生性資源の使用料削減 2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	解体廃棄時におけるリサイクルを促進する対策として、分別容易性などの取り組みについて評価する	レベル4 解体時におけるリサイクルを促進する対策として、評価する取り組みを1ポイント実施している レベル5 同 2ポイント以上実施している 【評価する取り組み】 再利用できるユニット部材を用いている（OAフロア等）	カーペットタイル リフォルタ QT
	3. 汚染物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用	室内空気質だけでなく広く環境影響を及ぼす可能性のある化学物質の使用削減を評価する	レベル4 化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つ以上～3つ以下ある レベル5 同 4つ以上ある	接着剤（ベンリダイン）

## CASBEEのイメージ





## LEED（エネルギーと環境デザイン：グリーンビルディング環境性能評価・認証システム） 米国グリーンビルディング協会（非営利団体 USGBC：U.S.Green Building Council）

LEED（Leadership in Energy & Environmental Design）は、環境に配慮した建物やエリア開発などに与えられる、第三者認証による格付けシステムであり、米国グリーンビルディング協会により開発・運営されています。1998年に新築建築物の評価を対象とした最初の評価ツールが発表されて以降、現在（LEED v4）では評価対象ごとに5つの認証システムが構築されています。また、LEEDのクレジット（評価項目）は、LEED-BD+Cの場合には7つの評価カテゴリー、55項目に対して評価し、合計ポイントに応じて評価ランクが決定します。

※認証ランク 40p～49p/Certified（標準認証）、50p～59p/Silver、60p～79p/Gold、80p～/Platinumの4種類

### LEED認証システム

評価システム		評価対象
BD+C	建築設計 および建設	新築または大規模改修
		テナントビルのオーナー工事
		学校、小売、データセンター、倉庫、流通センター、宿泊施設、病院
ID+C	インテリア設計 および建設	商業エリア、小売、宿泊施設
HOMES	住宅	住宅
O+M	既存ビル運用 メンテナンス	既存ビル、小売、学校、宿泊施設、データセンター、倉庫、流通センター
ND	近隣開発	新規の土地開発および再開発

## LEEDクレジット（評価項目）

評価カテゴリー	評価項目※	必須項目※
Location & Transportation（立地と交通）	8項目（16p）	なし
Sustainable Site（敷地選定）	7項目（10p）	1項目
Water Efficiency（水の利用）	7項目（11p）	3項目
Energy & Atmosphere（エネルギーと大気）	11項目（33p）	4項目
Materials & Resources（材料と資源）	7項目（13p）	2項目
Indoor Environmental Quality（室内環境）	11項目（16p）	2項目
Innovation（革新性）	2項目（6p）	なし
Regional Priority（地域別重み付け）	1項目（4p）	なし
合計 ※Integrative Process 1項目含む	55項目（110p）	12項目

※BD+Cの場合



使用する建築材料について、床材においては、リサイクル材料の使用やVOC（揮発性有機化合物）放散量が評価項目とされており、その基準をクリアしたことを示す認証を受けた材料について、ポイントの獲得に寄与することができます。

※この認証商品を採用することで、上記クレジットの「Indoor Environmental Quality（室内環境）」の項目でポイントの獲得に寄与します。



環境情報を開示し、エコリーフにて認証を受けた材料について、ポイントの獲得に寄与することができます。

※この認証商品を採用することで、上記クレジットの「Materials & Resources（材料と資源）」の項目でポイントの獲得に寄与します。

# 低環境負荷商品

当社グループは、各商品エレメントにおいて、省資源・省エネ・ロングライフを軸とした様々な低環境負荷商品を取り揃えています。

> 詳細は、「低環境負荷商品という選択」をご覧ください。

<https://contents.sangetsu.co.jp/doc/technical-data/> 「低環境負荷商品という選択」冊子ツール(24.09第三版).pdf

## 壁装材

### メグリウォール



車両のクッション材に使用される樹脂の端材を使用した壁紙や、お米を脱穀した際に出る籾殻を原料とした壁紙です。リサイクル材を使用することで、ライフサイクルにおけるCO2排出量を削減します。

#### ● 素材



##### ● 樹脂をリサイクル

車両のクッション材に使用される樹脂の端材を壁紙の表面材として再利用。裏紙にもリサイクル材を使用した、環境に配慮した壁紙です。



##### ● 籾殻をリサイクル

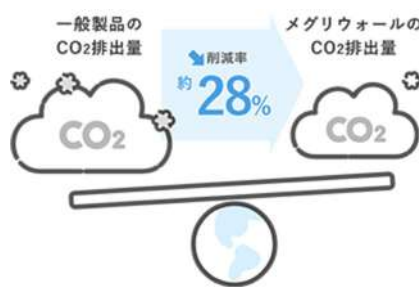
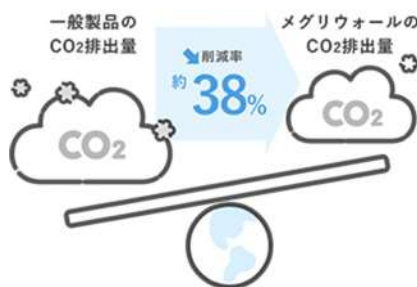
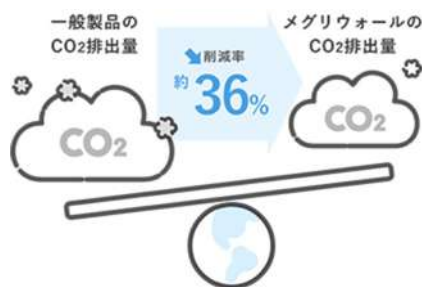
お米を脱穀した際に出る籾殻を細かく砕いて再利用した、地球にも人にもやさしい自然素材の壁紙です。



##### ● ヒノキをリサイクル

ヒノキを加工する際に出た端材を粉砕し壁紙の表面材として再利用。廃棄されるはずの材料を使用した、地球にやさしい壁紙です。

#### ● CO2削減率



※上記数値はメグリウォールの代表商品と一般的なビニル壁紙とを比較して削減率を算出しています。

※上記数値は算定値であり、保証値ではありません。

植物由来の原材料を使用したサステナブルな壁紙であり、一般的な石油由来の可塑剤を使用しないため、天然資源の節約に貢献します。また、環境負荷の少ない非フッ素系の撥水剤の使用やフタル酸フリー※を特徴としており、「自然との共生」をマテリアリティとして掲げる当社を代表する商品の一つとなっています。

※工程上、製造設備への付着等により、製品重量比で0.5%未満の混入は発生いたします。



## FSC®認証※の塩ビ壁紙

持続的な森林資源やその他リスクの低い由来からの原材料でつくられた低環境負荷商品です。

調達面での環境負荷低減を目指し、塩ビ壁紙の裏打紙に FSC®認証紙を採用しました。

当認証の取得について、塩ビ壁紙では国内初となります。

※FSC®認証とは、Forest Stewardship Council®が運営する国際的な森林認証制度で、適切な森林管理と、森林から得られた木材や木材製品が、違法伐採などから得られたものではないことを認証するものです。



The mark of  
responsible forestry  
FSC® N004634





## カーペットタイル「Double Eco + Wellness」



表面のパイルと裏面のバックング材にダブルでエコ素材を使用することで環境負荷の低減に貢献する商品です。

パイルには、漁網やカーペット廃材などをリサイクルした100%リサイクル糸「エコニール(R)」を採用し、裏面のバックング材には、使用済カーペットタイルの廃材を再利用した「リサイクルバックング」を用いることで、最大約47%の再生材比率を実現しています。

※当社後染従来品との比較による



## フロアタイル2.5mm厚



1995年から省資源化やCO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、全厚3ミリを2.5ミリへ変更しました。

単に薄くするだけでなく、表面クリア層を0.3ミリに設計することで、従来の耐久性は維持しながら環境負荷を軽減しました。2013年には、フロアタイルで初めてカーボンフットプリントマークを取得しました。一般的な全厚3ミリのタイルに比べ、製品の原材料調達から製造、物流、廃棄に至るまでのライフサイクルで1㎡あたりのCO<sub>2</sub>排出量を1.2kg削減しています(CO<sub>2</sub>排出量約13%削減)。

※カーボンフットプリント：経済産業省および関連省庁の推進する仕組みで、ライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの排出量をCO<sub>2</sub>量に換算し、マークなどを使って分かりやすく表示するものです。

同条件で生産した3.0mm厚フロアタイルと2.5mm厚フロアタイルのCO<sub>2</sub>排出量の比較と削減率※1

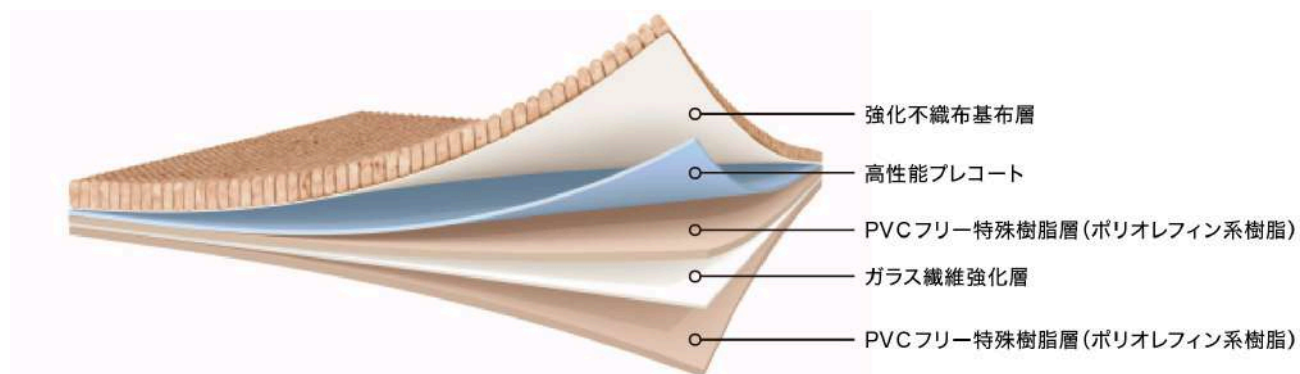


サンゲツの2.5mm厚フロアタイルは原材料に約45%リサイクル材を配合しています。※2

※1 2.5mm厚・3.0mm厚いずれも同条件でデータを取得し、自社算定ルールに基づき原材料調達段階、生産段階、建設段階、廃棄リサイクル段階を対象としたLCA（ライフサイクルアセスメント）を実施し、定量化されたCO<sub>2</sub>排出量から削減量と削減率を算出しています。

※2 2.5mm厚フロアタイルの年間出荷量から加重平均値を算出しています。

当社は、世界最大規模のカーペットメーカーであるShawContractの日本における正規代理店として、2025年より、同社商品の取り扱いを開始しました。サステナブルで洗練されたデザインと高いクオリティが同社商品の特長であり、EcoSolution Q100とEcoWorx®を組み合わせたカーペットタイル商品は、脱炭素と資源循環に貢献しています。



### ● EcoSolution Q100 (ナイロン糸)

EcoSolution Q100は、100%リサイクル素材からつくられた高性能なナイロン繊維であり、環境への配慮をしています。

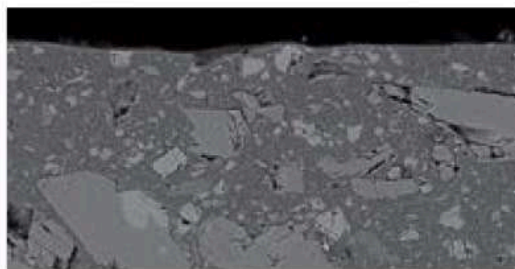
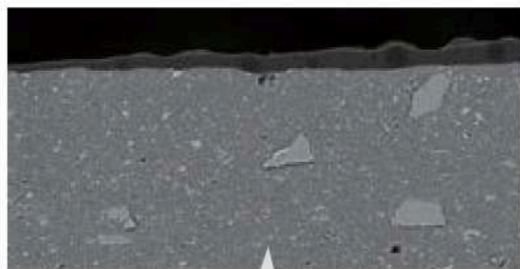
### ● EcoWorx® (バックング)

EcoWorx®は、PVCを一切使用していないバックングです。

単層ビニル床シートは、たいへん粒子の細かい塩ビ樹脂、鉱物などを原料とした緻密な単層構造により、表面の凹凸が少なく、汚れや薬品が入り込みにくい商品です。日常メンテナンスでは、表面のふき取りのみで汚れが除去できます。歩行などの摩耗により表面に傷が生じた場合でも、自動床洗浄機により汚れを落としつつ表面を磨くことにより、防汚機能を再生できるため、製品寿命を通じて永久ワックスフリーを実現した環境負荷の小さい商品です。

### ● 高性能の理由は緻密な単層構造

単層ビニル床シート（グラニット） 一般長尺シート



粒子が細かく凹凸の少ない表面により、汚れが入り込みにくい構造です。

### ● ワックスフリーを実現

ワックス不要、メンテナンスが容易で、廃液（汚水、ワックス、剥離剤）を最小限化します。また、ワックス塗布・剥離のための電力消費を抑えることができます。

### ● 環境にやさしい商品

メンテナンスが容易で廃液（汚水・剥離剤等）を最小限にします。床材の長寿命化により余分な廃材も出しません。また、再生塩ビ樹脂系材料を25%以上（製品重量比）使用したグリーン購入法適応商品です。

### ● 優れた耐薬品性・耐動荷重性

消毒液に含まれるアルコールや次亜塩素酸に対する耐久性があります。病院などでしばしば見られる、薬品による床の変色を防ぐことができます。また耐動荷重性に優れ、ストレッチャーや配膳車などが走行する場所でも破損や膨れが生じにくい特長があります。

## Re巾木

Re巾木は材料の一部に壁紙のリサイクル材を使用しています。



リサイクルの原料は  
壁紙の生産端材



壁紙を粉砕し  
塩ビと裏打ち紙に分離



分離して抽出した  
塩ビをペレット化



ペレット化した  
塩ビを一部使用し成形



※画像はイメージです



## 透明遮熱フィルム/低放射フィルム

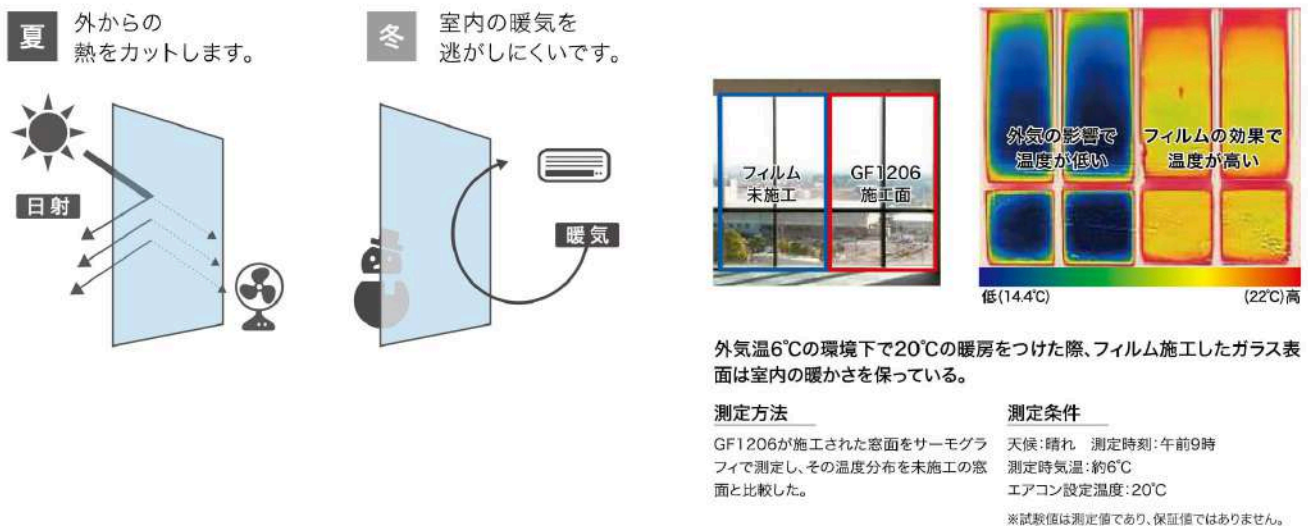


冬の室内の暖気を窓から逃がさず、室内の暖かさを保ち、年間を通じて省エネ効果が期待できます。

### data 1 性能比較



### data 2 低放射フィルムの効果



脱炭素・循環型社会の実現に向けた、ペットボトル由来の透明ガラスフィルムです。

## data 1 ペットボトルのリサイクル量について



1m²あたり2.8本相当のリサイクルされたペットボトル※1を使用しています。

※1 ペットボトルサイズ500ml 約20g/本として算出

## data 2 製造過程のCO₂排出削減について



一般的な透明飛散防止フィルム※2と比較して、製造過程のCO₂排出量を10%削減することができました。

※2 石油由来100%のPET材料を使用した透明飛散防止フィルム

## ファブリック

## 省エネカーテン



### 遮熱(ドレープ)

一般ドレープと比較し、遮熱（断熱）効果の高いドレープに表示しています。

日射熱による室内温度の上昇を抑制することで、冷房効率が上がり、相対的省エネ効果があります。

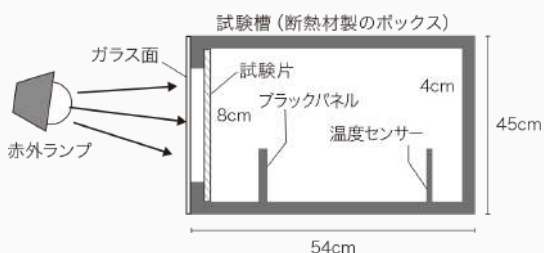
### 試験方法：断熱性試験（QTEC法）

- 右図の装置に試験片を取り付け、ガラス面より約50cm離れたところに赤外ランプを設置し、内部に設置したブラックパネル、温度センサーを設置する。
- 赤外ランプを60分間照射し、5分毎にブラックパネル温度、試験槽内温度を測定する。
- 測定値より断熱効果を算出する。

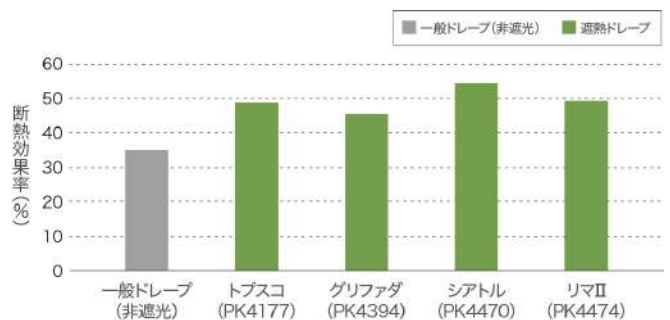
断熱効果率(%) =

$$\frac{(\text{空試験の最大上昇温度} - \text{試験片試験の最大上昇温度})}{\text{空試験の最大上昇温度}} \times 100$$

※上昇温度とは、初期温度から上がった温度の量を示す。(初期：0℃)



### 断熱効果率（試験槽内）一覧



※試験結果は測定値であり、保証値ではありません。



## 遮熱(レース)

一般社団法人 日本インテリア協会 (NIF) の基準適合

一般レースと比較し、遮熱効果の高いレースに表示しています。

日射熱による室内温度の上昇を抑制することで、冷房効率が上がり、相対的省エネ効果があります。

試験方法：遮熱性試験 (JIS L 1951) またはカケンレフランプ試験 (インテリア法) ※2種併用

試験片条件：遮光率が99.4%未満 (採光率0.6%以上) の生地であること

判定基準：遮熱率25%以上 (小数点第1位四捨五入)



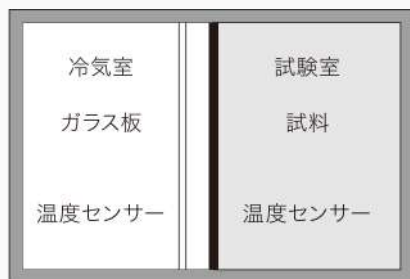
## 保温

一般レースと比較し、保温効果の高いレースに表示しています。

室内の熱を逃がしにくく室内温度の低下を抑制することで、暖房効率が上がり、相対的省エネ効果があります。

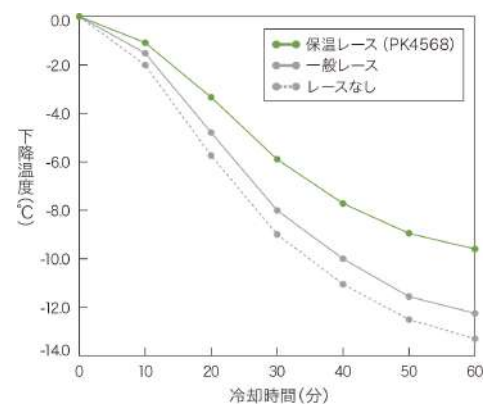
試験方法：保温性試験 (QTEC法)

- (1) 下図の装置に約45cm×40cmの試験片を取り付け冷気室及び試験室の温度を約25°Cに調整する。
- (2) 冷却装置を用いて冷気室内を60分間冷却し、試験室内の温度変化を測定する。



試験室の大きさ (内寸) 43.5×43.5×48.5cm (0.092m<sup>3</sup>)

試験結果 (10分間毎の下降温度変化)



※試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

## リサイクルカーテン

廃番となった未使用の自社カーテン生地を粉碎・紡績して出来た反毛糸を生地の一部に使用したカーテンを新たに開発しました。この商品を通じて、水平リサイクルを促進し、サーキュラーエコノミーの実現に貢献していきます。



## エコマーク認定カーテン

再生PET繊維を50～100%使用した商品です。

使用済みのペットボトルを再利用した製品の開発・販売を通じて、廃棄物発生削減に貢献します。



使用済みペットボトル



ベレットから製糸



カーテン



## 椅子生地「アクアクリン」

特殊な繊維加工により、「水」で日常生活での汚れの多くを取り除くことができます。また、環境に配慮し、人体に有害な物質が含まれず安全であることを証明するエコテックス®スタンダード100を取得しています。



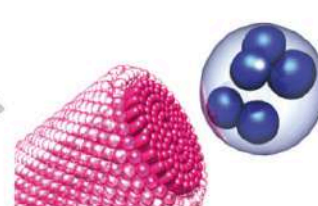
アクアクリン加工により、繊維全てが目に見えない分子皮膜で覆われています。



皮膜により、汚れが繊維に浸透するのを防ぎます。



水を加えるだけで汚れが浮き上がります。



布で拭き取るだけで汚れが落とせます。



## 汚染防止に関する考え方

---

サンゲツグループは、企業活動を遂行するうえで、大気・水質・土壌への汚染を回避・低減することを重要な課題の一つと認識し、環境保全への責任を果たすべくさまざまな取り組みを推進しています。化学物質や有害廃棄物の管理体制を強化し、排出量の削減および適正な処理に取り組むとともに、大気汚染物質の排出削減に努めています。また、環境保全に関する国際的な宣言・協定・条約、ならびに国内外の法令や業界ガイドラインを遵守し、継続的に汚染防止に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 化学物質に関する取り組みについて

---

EUのRoHS指令やREACH規則に代表される世界的な製品含有化学物質管理規制が強化されるとともに、生物多様性への取り組みが推進されています。また、労働安全衛生の観点からも化学物質の管理が厳しくなっている状況です。このため、企業には化学物質に関する法規制への対応が、これまで以上に求められています。

特に商品の含有化学物質については、ご使用いただくお客様にどのように危険・有害性等、リスクを伝達するかが重要ととらえています。そのために、環境マネジメントシステムにおいて、商品含有化学物質管理の要素を盛り込んだ帳票類を作成しています。化学物質への対応強化による安全安心な商品提供を第一義として、インテリア商品ではAIS（Article Information Sheet）を発行しています。また、接着剤や副資材関係はSDS（Safety Data Sheet）を発行し、GHS（Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals）により、国際ルールに則った、分かりやすい危険・有害性情報等の発信によりリスクを最小限にするために取り組んでいます。

## 当社商品の含有化学物質管理について

---

当社商品の中には、法規制によっては含有させてはいけない物質や、禁止ではないが含有率などの状況を把握し、届出や情報伝達を求められる物質が含まれている可能性があります。当社商品の含有化学物質情報は商品供給メーカーより入手する必要があり、商品供給メーカーは原材料供給メーカーより情報を入手する必要があります。サプライチェーンの情報の流れが商品の含有化学物質規制の遵守を可能にします。

当社商品を安心してご使用いただき、環境に配慮した商品であることを確実にするために、サプライチェーンで共通化された書式・ツールを用いることで情報収集の仕組みを整備して行きます。



## 建築基準法によるシックハウス規制について

---

2002年7月の建築基準法改正で、室内の環境浄化を目的にシックハウス規制（建材の制限と機械換気設備の設置）が2003年7月に施行されました。シックハウス規制対象となる化学物質は、クロルピリホスとホルムアルデヒドの2物質で、クロルピリホスを添加してある建材は使用禁止、ホルムアルデヒド発散建築材料はランク分けされ、使用面積の制限が設定されました。当社にかかわる建材のうち、壁紙においては第一種ホルムアルデヒド発散建築材料の製品として告示されたことから、壁紙を内装仕上げ材として用いる場合は、製造業者がJISまたは国土交通大臣の認定を取得し、発散等級を明らかにすることが必須となりました。

壁紙を施工する際に使用する壁紙用澱粉系接着剤も「第1種ホルムアルデヒド発散材料」に指定され、面積制限の規制対象品となりました。

ホルムアルデヒドを発散する建築材料は、発散速度性能に応じて「第1種」から「規制対象外」までの4つの種別に区分されます。

居室の内装仕上げ材として、等級表示のない告示対象の建築材料は使用できなくなりました。ただし、部分的な面（柱、廻り縁、窓台、巾木、建具材等）は対象とはなりません。

当社壁装材見本帳に収録される壁紙については、全点シックハウス規制対象外（F☆☆☆☆）の性能を保持し、使用制限が無くお使いいただける商品を提供しています。

## リスクアセスメント※の義務化について

---

労働安全衛生法が改正され、一定の危険有害性のある化学物質に対し、事業場での危険性や有害性の調査（リスクアセスメント）の実施が義務付けられました。（平成28年6月1日施行）

### 1. 表示義務（ラベル表示）対象物質の拡大

危険有害性情報や取り扱い方法について、容器や包装ラベルに表示される化学物質の対象が拡大傾向にあり、令和4年4月1日施行の改正により896物質が対象となりました。

### 2. リスクアセスメントの義務化

対象物質について、これらを取り扱う事業場にリスクアセスメントの実施が義務付けられました。

当社では、これら関連する法令について、随時確認、検討を重ね、ご使用に当たっての注意事項などを分かりやすくお伝えし安心してご使用いただけるように日々取り組んでいます。

※リスクアセスメント：化学物質の危険性や有害性を特定し、それによる労働者への危険または健康障害を生じるおそれの程度を見積り、リスクの低減対策を検討すること。

# 大気汚染防止に関する取り組みについて

大気汚染物質には、「大気汚染防止法」で定められたばい煙、SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）、NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）、VOC（揮発性有機化合物）などがあります。これらの物質は、光化学スモッグ等の発生、健康や地球環境に影響を与えますが、サンゲツグループでは、製造設備について適切な管理を行っています。

ばい煙やVOCはボイラーやコーター※稼働時に排出されますが、弊社グループであるクレアネイト株式会社で使用する全てのボイラーならびにコーターは、法に従って適切に管理されています。

また、コーターには専用の排出ガス浄化設備を増設しています。クレアネイト株式会社では2009年に全てのコーターに関して蓄熱燃焼式排ガス浄化装置（RTO）の導入を完了し、法の規制値をクリアしています。

※コーターとは、基材に塗工液を定量均一に塗布する設備であり、具体的には塩ビ壁紙の製造初工程で裏打ち紙に塩ビ樹脂塗工液を塗布乾燥する設備





# 水資源の保全

## 水資源の保全に関する考え方

---

サンゲツグループは、製造工場を有する企業グループとして、水資源の持続的な活用の重要性を認識しています。グループ全体の事業活動において、水は重要な資源の一つであり、その使用量の削減や効率的な利用は、環境に配慮した経営を進めるうえで不可欠であると考えています。私たちは、水資源の保全に向けて、水使用量（取水量および排水量）の把握と適正な管理を徹底するとともに、水リスク低減にも継続的に取り組んでいます。

## 水使用量削減に向けた取り組み

---

当社グループでは、限りある水資源の有効活用と環境保全のため、水使用量の削減に取り組んでいます。本社や各拠点におけるトイレの新設・改修に際しては、節水タイプのトイレの導入を推進しています。この取り組みにより、日常的な水利用の効率化と水資源の保全を図っています。また、製造会社であるクレアナイトで使用する冷却水においては、全工場に貯水池とチラーを設置し、回収・循環させて再利用しています。今後も、持続可能な社会の実現に向けて、水資源の有効活用に努めていきます。

# 水リスク、水ストレス評価

世界資源研究所（World Resources Institute）が開発したAqueduct（アキダクト）を用いて、国内事業所の水リスク、水ストレス、河川洪水リスク、沿岸洪水リスクの評価を実施しています。

## 水リスク

水リスクとして、水ストレス・枯渇・経年変動・季節変動・地下水位の低下・河川洪水・沿岸洪水・干ばつ・未処理の接続廃水・沿岸の富栄養化の可能性・飲料水の不足・不衛生・国別ESGリスクの指標を測定しています。

単位：m<sup>3</sup>

水リスクレベル※	事業所数	事業所名	地域	取水量／排水量 (2024年度実績)
Extremely High(4-5)	該当なし	該当なし	該当なし	0
High(3-4)	該当なし	該当なし	該当なし	0
Medium-High(2-3)	該当なし	該当なし	該当なし	0
Low-Medium(1-2)	43	北東北営業所、PARCs、FIELDs、東関東営業所、西関東支社、厚木営業所、多摩営業所、甲府事務所、北関東支社、群馬営業所、栃木営業所、茨城営業所、本社・中部支社、北陸支店、静岡営業所、浜松事務所、沼津事務所、関西支社、京都営業所、神戸営業所、姫路事務所、東大阪営業所、南大阪営業所、和歌山事務所、中国四国支社、山口事務所、福山事務所、岡山営業所、鳥取事務所、品川ショールーム、大阪ショールーム、広島ショールーム、金沢ショールーム、東京ロジスティクスセンター、北関東ロジスティクスセンター、北関東SCMセンター、茨城カーテンセンター、中部ロジスティクスセンターⅠ、中部ロジスティクスセンターⅡ、関西ロジスティクスセンター、中国四国ロジスティクスセンター	盛岡市、千代田区、品川区、千葉市、厚木市、立川市、甲府市、さいたま市、高崎市、宇都宮市、つくば市、名古屋市、金沢市、静岡市、浜松市、駿東郡、大阪市、京都市、神戸市、姫路市、東大阪市、堺市、和歌山市、広島市、福山市、山口市、岡山市、鳥取市、港区、大阪市、大田区、久喜市、行方市、稲沢市、都窪郡	24,384
Low(0-1)	34	北海道支社、函館事務所、旭川事務所、帯広事務所、東北支社、青森事務所、秋田事務所、山形事務所、福島営業所、新潟営業所、長野営業所、松本事務所、津事務所、岐阜営業所、岡崎営業所、松江事務所、四国支店、松山事務所、高知事務所、徳島事務所、九州支社、熊本営業所、長崎事務所、北九州営業所、大分事務所、南九州営業所、宮崎事務所、福岡ショールーム、沖縄ショールーム、仙台ショールーム、北海道ロジスティクスセンター、東北ロジスティクスセンター、四国中央サテライトセンター、九州ロジスティクスセンター	札幌市、函館市、旭川市、帯広市、仙台市、青森市、秋田市、山形市、郡山市、新潟市、長野市、松本市、津市、岐阜市、岡崎市、松江市、高松市、松山市、高知市、徳島市、福岡市、熊本市、西彼杵郡、北九州市、大分市、鹿児島市、宮崎市、宜野湾市、四国中央市	2,579.5

## 水ストレス

水ストレスとして、総取水量と供給量に対する比率でストレス度合いを測定しています。

単位：m

水ストレスレベル※	事業所数	事業所名	地域	水使用量 (2024年度実績)
Extremely High(4-5)	該当なし	該当なし	該当なし	0
High(3-4)	2	岡崎営業所、松江事務所	岡崎市、松江市	23
Medium-High(2-3)	40	北東北営業所、PARCs、FIELDs、東関東営業所、西関東支社、厚木営業所、多摩営業所、甲府事務所、北関東支社、群馬営業所、栃木営業所、茨城営業所、本社・中部支社、静岡営業所、浜松事務所、沼津事務所、品川ショールーム、名古屋ショールーム、東京ロジスティクスセンター、北関東ロジスティクスセンター、北関東SCMセンター、茨城カーテンセンター、中部ロジスティクスセンターⅠ、中部ロジスティクスセンターⅡ	盛岡市、千代田区、品川区、千葉市、横浜市、厚木市、立川市、甲府市、さいたま市、高崎市、宇都宮市、つくば市、名古屋市、静岡市、浜松市、駿東郡、港区、大田区、久喜市、行方市、稲沢市	22,570
Low-Medium(1-2)	25	北陸支店、関西支社、京都営業所、神戸営業所、姫路事務所、東大阪営業所、南大阪営業所、和歌山事務所、中国四国支社、山口事務所、福山事務所、岡山営業所、鳥取事務所、大阪ショールーム、広島ショールーム、金沢ショールーム、関西ロジスティクスセンター、中国四国ロジスティクスセンター、東北支社、秋田事務所、山形事務所、福島営業所、新潟営業所、長野営業所、松本事務所、津事務所、岐阜営業所、四国支店、松山事務所、高知事務所、九州支社、熊本営業所、長崎事務所、北九州営業所、大分事務所、福岡ショールーム、仙台ショールーム、東北ロジスティクスセンター、四国中央サテライトセンター、九州ロジスティクスセンター	金沢市、大阪市、京都市、神戸市、姫路市、東大阪市、堺市、和歌山市、山口市、福山市、岡山市、鳥取市、都窪郡、仙台市、秋田市、山形市、郡山市、新潟市、長野市、四国中央市	4,328
Low(0-1)	10	北海道支社、函館事務所、旭川事務所、帯広事務所、南九州営業所、宮崎事務所、沖縄ショールーム、北海道ロジスティクスセンター、青森事務所、徳島事務所	札幌市、函館市、旭川市、帯広市、鹿児島市、宮崎市、宜野湾市、青森市、徳島市	42.5

※Aqueductの評価基準

※出典: WRI Aqueduct、2025年11月13日時点のデータを使用

なお、各評価以外の文章については当社で作成したものであり世界資源研究所の承認は受けておりません。



## 外部との連携

### 環境パートナーシップ・CLUBへの参加



環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）は、中部地域の産業界が中心となり業種・業態の枠を超えて環境負荷低減活動などに関する研究、交流、実践、そして情報発信を行うことにより「循環型経済社会」の構築を目指して2000年2月に設立され、多種多様な活動に取り組んでおります。

サンゲツは、EPOCの設立趣旨に賛同し、活動に参加しています。

#### 環境パートナーシップ・CLUB概要

##### 設立の目的

産業界の環境オピニオンリーダーが中心となり、エコ・エフィシェンシー（環境効率性）の実現を追求するとともに、中部圏から環境対応に関するさまざまな情報を発信し、世界に誇れる環境先進地域の形成と安全かつ快適な「循環型経済社会」の構築を目指します。

- 環境行動の社会への浸透活動
- 環境マインドに溢れた社会風土づくり活動
- 環境行動に関する情報発信活動
- 環境行動に関する国際交流活動

##### 2030年ビジョン

#### 「環境のわざ」と「パートナーシップ」を活かして持続可能な経済社会の実現へ

企業が培ってきた環境のわざ（成果）を活かして、「低炭素」・「資源循環」・「自然共生」を相互に協調させた「持続可能な経済社会」の構築を目指す。

##### 活動方針

- 環境経営の実践と会員間の連携強化により、
  - ・産業界全体の更なるレベルアップを図る。
  - ・事業活動を通じた環境・社会課題の解決、技術革新、イノベーション創出を推進する。
- 会員以外の企業や市民・学校等、地域との交流や情報発信により、環境行動の契機を提供する。



### 一般社団法人サステナブル経営推進機構への参加

当社は、一般社団法人サステナブル経営推進機構（SuMPO）が運営する「SuMPO 環境ラベルプログラム」に参加しています。このプログラムへの参加の目的は、当社が提供する床材製品において、原材料調達から製造、流通、使用、廃棄に至るまでのサプライチェーン全体を含めたライフサイクルの環境負荷を、客観的かつ定量的に開示することにあります。この取り組みにより、低環境負荷商品の選択肢を顧客の皆様に分かりやすく訴求するとともに、サプライチェーン全体での環境負荷の把握と削減の推進を図っています。

## 報告対象範囲とデータカバー率

	対象範囲	データカバー率
単体	サンゲツ	79.2%
連結	サンゲツ・ヴォーヌ・フェアートン（壁装含む）・サンゲツ沖縄・サングリーン・クロス企画・GGH・GGHK・クレアネイト・Koroseal（Metro含む）	100%

### カバー率算出方法

$$\text{カバー率 (\%)} = \frac{\text{報告対象会社の売上高}}{\text{サンゲツグループの売上高}} \times 100$$

## 環境に関する開示データ

### 第三者保証

☑の付されたデータは、独立した第三者保証を得ています。

> 独立した第三者保証報告書 [🔗](#)

### GHG排出量（Scope1,2）

#### 算定方法

CO2総排出量=Σ（燃料使用量×CO2排出係数）+ Σ（購入電力量×CO2排出係数）

指標		単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
サンゲツグループ 拠点合計	Scope1	t-CO2e	連結	12,755	13,958	13,828	13,253	12,414
	Scope2	t-CO2e	連結	15,316	16,519	15,851	13,583	11,215
	Scope1,2	t-CO2e	連結	28,071	30,477	29,679	26,836	23,629
サンゲツ単体 拠点合計	Scope1	t-CO2e	単体	1,999	1,717	1,539	☑1,172	☑1,261
	Scope2	t-CO2e	単体	4,234	4,275	4,129	☑3,699	☑2,799
	Scope1,2	t-CO2e	単体	6,233	5,992	5,668	☑4,871	☑4,060

## GHG排出量（Scope3）

カテゴリ	単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
① 購入した製品サービス	t-CO2e	単体	337,379	364,167	394,333	460,209	446,708
② 資本財	t-CO2e	単体	9,296	5,005	1,476	6,176	3,674
③ Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	t-CO2e	単体	733	731	648	544	575
④ 輸送、配送（上流）	t-CO2e	単体	22,131	22,302	21,619	17,509	18,277
⑤ 事業から出る廃棄物	t-CO2e	単体	1,058	1,015	947	1,203	1,107
⑥ 出張	t-CO2e	単体	154	155	156	161	169
⑦ 雇用者の通勤	t-CO2e	単体	424	445	487	477	358
⑧ リース資産（上流）※ <sup>1</sup>	t-CO2e	単体	-	-	-	-	-
⑨ 輸送、配送（下流）	t-CO2e	単体	1,316	1,224	1,310	1,069	1,038
⑩ 販売した製品の加工	t-CO2e	単体	3,780	2,493	3,407	3,395	3,328
⑪ 販売した製品の使用※ <sup>2</sup>	t-CO2e	単体	-	-	-	-	-
⑫ 販売した製品の廃棄	t-CO2e	単体	6,792	6,314	6,916	7,105	6,957
⑬ リース資産（下流）※ <sup>3</sup>	t-CO2e	単体	-	-	-	-	-
⑭ フランチャイズ※ <sup>4</sup>	t-CO2e	単体	-	-	-	-	-
⑮ 投資※ <sup>5</sup>	t-CO2e	単体	-	-	-	-	-
Scope3	t-CO2e	単体	383,062	403,851	431,299	497,848	482,191

※1.自社が貸借しているリース資産(機器)はあるが、全てにおいて電力使用がScope2に含まれているため算定対象から除外

※2.販売している製品は、壁材、床材、ファブリック（カーテン、イス生地等）等の中間製品であり、直接使用段階にエネルギーを使用する製品ではなく、間接使用段階の排出であるため算定対象から除外

※3.自社物件のリースはあるが、貸し先へ使用用途を指定するといった直接的な関わりは無いため算定対象から除外

※4.フランチャイズによる運営を行っていないため算定対象から除外

※5.本カテゴリは主として民間金融機関（商業銀行）のカテゴリであるため算定対象から除外

## エネルギー消費量・電力使用量関連

指標		単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
サンゲツグループエネルギー消費量	合計	GJ	連結	495,641	532,410	588,235	580,869	559,768
サンゲツ単体エネルギー消費量	合計	GJ	単体	141,259	133,264	129,067	121,626	117,339
	電気	GJ	単体	107,353	108,740	107,224	100,295	94,172
	ガス (都市ガス・天然ガス)	GJ	単体	20,201	12,280	11,503	8,718	9,330
	燃料 (LPG・ガソリン・灯油・軽油)	GJ	単体	13,705	12,244	10,340	11,206	12,181
	熱 (蒸気・温水・冷水)	GJ	単体	0	0	0	1,407	1,656
電力使用量		kwh	連結	35,116,971	37,290,854	37,294,156	37,132,401	37,802,567
電力使用量		kwh	単体	10,767,599	10,906,705	10,754,649	10,754,309	11,591,035
太陽光発電量		kwh	単体	0	0	0	396,733	1,352,273
再生可能エネルギー使用率		%	連結	0.0	0.0	0.0	21.2	39.0
再生可能エネルギー使用率		%	単体	0.0	0.0	0.0	25.1	45.1

## 廃棄物関連

指標		単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
サンゲツグループ廃棄物排出量	合計	t	連結	10,531	9,879	9,006	10,461	11,141
	リサイクルされた廃棄物の排出量	t	連結	6,467	6,109	6,182	6,245	7,033
	非リサイクル廃棄物の排出量	t	連結	4,064	3,770	2,824	4,216	4,104
	有害廃棄物 (医療用、指定有害)の排出量	t	連結	0	0	0	0	5.0
サンゲツ単体廃棄物排出量	合計	t	単体	4,098	4,283	4,134	4,021	4,699
	リサイクルされた廃棄物の排出量	t	単体	3,103	3,417	3,387	2,872	3,884
	非リサイクル廃棄物の排出量	t	単体	995	866	747	1,147	810
	有害廃棄物 (医療用、指定有害)の排出量	t	単体	0.4	0.4	0.3	1.9	5.0
リサイクル率※		%	連結	64.5	65.7	64.6	63.1	64.6
		%	単体	77.6	81.7	83.7	74.5	84.1
見本帳リサイクル冊数		冊	単体	15,344	62,915	77,262	119,604	54,844

※算出方法：(有価物＋再資源化廃棄物)÷(一般廃棄物＋有価物＋再資源化廃棄物＋単純処分＋有害廃棄物)×100

## 水使用量

指標	単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
取水量	m <sup>3</sup>	連結	79,195	78,924	81,797	76,456	74,982
取水量	m <sup>3</sup>	単体	25,779	26,954	25,478	29,910	26,964
排水量	m <sup>3</sup>	連結	79,195	78,924	81,797	76,456	74,982
排水量	m <sup>3</sup>	単体	25,779	26,954	25,478	29,910	26,964

## 環境保全コスト

分類		主な取り組み 内容	単位	集計範囲	2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
					投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内 コスト	合計	-	百万円	単体	78.8	234.8	118.4	46.6	14.9	33.2	144.7	74.6	41.2	131.8
	公害防止コスト	大気・水質・ 土壌汚染防止等	百万円	単体	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	地球環境保全 コスト	温暖化防止、 省エネ、環境 対応車両の導入等	百万円	単体	70.7	38.9	118.4	4.3	14.9	1.5	144.7	-	32.0	18.0
	資源循環コスト	資源の効率的 利用、 廃棄物関連等	百万円	単体	8.1	195.9	-	42.3	-	31.7	-	74.6	9.2	113.7
上・下流コスト		グリーン購入、 商品リサイクル、 シックハウス 対応等	百万円	単体	-	2.4	-	172.7	-	183	-	165.4	-	174.1
管理活動コスト		環境マネジメントシステム のPDCA活動、緑化等	百万円	単体	-	1.5	-	2.4	-	1.1	-	1.5	-	5.0
研究開発コスト		環境対応商品の 開発等	百万円	単体	-	15.2	-	4.3	-	3.8	-	9.3	-	0.5
社会活動コスト		自然環境保全 活動、 団体への寄付、支援等	百万円	単体	-	1.1	-	0.4	-	0.4	-	3.2	-	3.1
環境損傷対応コスト		環境汚染の修復・保全	百万円	単体	-	-	-	-	-	-	-	0.0	-	0.0
合計					78.8	255	118.4	226.4	14.9	221.5	144.7	254.1	41.2	314.5



## 環境保全効果

分類	環境パフォーマンス指標	単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量	GJ	単体	141,259	133,264	129,067	121,626	117,339
	水資源投入量	m <sup>3</sup>	単体	25,779	26,954	25,478	29,910	26,964
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量	t-CO <sub>2</sub> e	単体	6,233	5,992	5,668	4,871	4,060
	廃棄物総排出量	t	単体	4,098	4,283	4,134	4,021	4,699
	総排水量	m <sup>3</sup>	単体	25,779	26,954	25,478	29,910	26,964
事業活動から産出する財・サービスに関する環境保全効果	商品軽量化によるCO <sub>2</sub> 削減 ※（フロアタイル：CFP取得分を算出）	t	単体	22,787	26,894	10,019	3,267	3,983
その他の環境保全効果	太陽光設置による電力創出	kWh	単体	508,251	499,300	514,309	510,104	1,874,622

## 環境保全対策に伴う経済効果

分類	主な取組み内容	単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
費用削減	梱包資材（床材出荷時の紙管等）リユース、エコドライブ化による燃料費削減など	百万円	単体	14.2	10.7	8.6	0.2	0.4
収益	太陽光設置に伴う収益、廃棄物の有価物化による売却益など	百万円	単体	20.9	20.8	21.3	19.2	19.2

## 環境関連法規制遵守

指標		単位	集計範囲	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
環境に関する罰金および処罰のコスト	合計	円	単体	0	0	0	0	0
	水質や水量	円	単体	0	0	0	0	0
	廃棄物	円	単体	0	0	0	0	0

※2024年度において、当社の全事業拠点における環境関連法規制違反（廃棄物、水質・水量に関連するものを含む）は0件であり、罰金および制裁金の支払いは0円でした。また、非金銭的制裁もありませんでした。

# Joy of Design

# sangetsu

株式会社サンゲツ

総務部

〒451-8575

名古屋市西区幅下一丁目4番1号

TEL : 052-564-3090

<https://www.sangetsu.co.jp/company/sustainability/>